

平成27年度
文化に関する意識調査

静岡県

目次

I	調査概要	3
1	調査目的	3
2	調査内容	3
3	調査方法	3
4	回収結果	3
5	報告書を読む際の留意点	3
6	年代別補正	4
7	回答者の属性	4
II	設問別の結果	5
1	文化・芸術の鑑賞について	5
1-1	メディアによる鑑賞機会	5
1-2	メディアによる鑑賞内容	7
1-3	メディアによる鑑賞への月間支出額	10
1-4	直接鑑賞機会	12
1-5	直接鑑賞した内容	14
1-6	直接鑑賞への1公演平均支出額	18
1-7	直接鑑賞しなかった理由	20
1-8	今後直接鑑賞したい内容	25
1-9	鑑賞情報の入手媒体	33
1-10	鑑賞のために出かけたいと思う地域の範囲	38
2	文化・芸術の活動について	40
2-1	活動機会の有無	40
2-2	活動内容	42
2-3	活動への月間支出額	46
2-4	活動しなかった理由	49
2-5	活動の情報入手媒体	54
2-6	今後活動したい内容	59
2-7	活動による効果・影響	64
3	静岡県の文化施設等について	67
3-1	「静岡県立美術館」への期待	67
3-2	「グランシップ」の利用経験	71
3-3	「グランシップ」の未利用理由	73
3-4	「グランシップ」への期待	75
3-5	「公益財団法人静岡県舞台芸術センター（以下、SPAC）」の認知度	79
3-6	「SPAC」の鑑賞経験	81
3-7	「SPAC」への期待	83
3-8	「SPAC」を鑑賞しない理由	86
3-9	「SPAC」海外公演への意見	88
3-10	ふじのくに地球環境史ミュージアムの認知度	90

4	静岡県の文化振興について.....	92
4-1	文化に期待するもの.....	92
4-2	地域の誇りだと感じられる文化資源の有無.....	95
4-3	地域の誇りだと感じられる文化資源.....	97
4-4	文化・芸術の子どもへの提供.....	98
4-5	災害発生後の文化の役割の有無.....	101
4-6	災害発生後の文化の役割.....	103
4-7	オリンピック・パラリンピック「文化プログラム」の認知度.....	106
4-8	支援活動参加の有無.....	108
4-9	支援活動の内容.....	110
4-10	支援活動参加理由.....	113
4-11	支援活動参加希望の有無.....	115
4-12	参加したい支援活動.....	117
5	意見・要望など.....	120
6	集計表.....	125
7	調査票.....	181

I 調査概要

1 調査目的

静岡県民が文化に関してどのように感じ、文化の振興にどのような意見を持っているのかを把握するとともに、過去の調査結果と今回（平成27年度実施）の調査結果とを比較することで、文化活動や意識についての経年的な変化を把握し、今後の文化振興を進めて行く上での参考資料とする。

2 調査内容

- ①最近1年間の文化に関する活動や参加状況について
- ②文化に関する意識、イメージについて
- ③静岡県の文化振興の現状と今後の方向性などについて

3 調査方法

- ①調査地区 静岡県全域
- ②調査対象 静岡県在住の20歳以上の男女個人
- ③対象者数 2,000人
- ④抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ⑤調査方法 郵送調査法（郵送配布－郵送回収）
- ⑥調査時期 平成28年2月

4 回収結果

有効回収数 764件
有効回収率 38.2%

5 報告書を読む際の留意点

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのために比率の合計が100%にならないことがある。
- ②複数回答が可能な設問については、比率の合計は100%を超えることがある。
- ③本文中の設問の選択肢については、長文項目は簡略化した箇所がある。
- ④図表中の件数の単位はすべて「人」である。

6 年代別補正

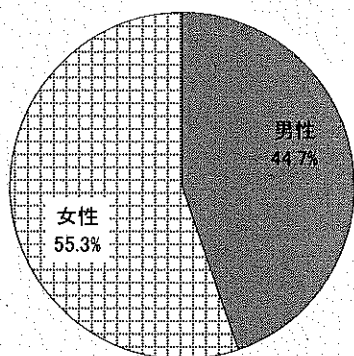
アンケート回収結果の比率については、静岡県全体の年代別人口（母集団）からの偏りを補正計算して調査結果としている。件数は回答件数としている。

静岡県全体の年代別人口(※1)		回収		補正後
		数	割合(%)	割合(%)
20～29歳	368,852	54	7.1	12.0
30～39歳	517,498	87	11.4	16.9
40～49歳	489,398	125	16.4	16.0
50～59歳	493,555	137	17.9	16.1
60～69歳	552,618	199	26.0	18.0
70歳以上	640,772	162	21.2	20.9
合計	3,062,693	764	100.0	100.0

※1 平成22年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

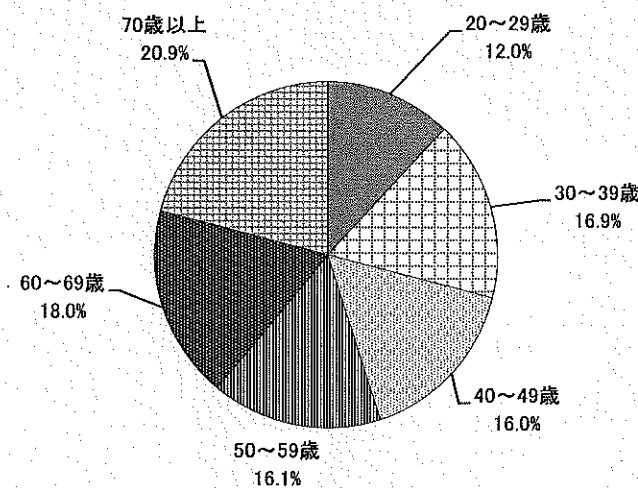
7 回答者の属性

【性別】



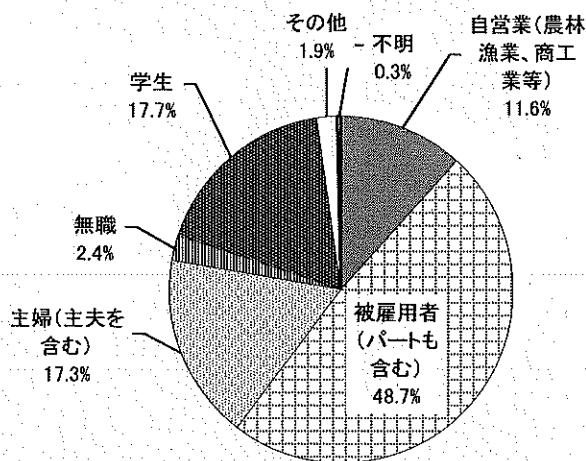
件数=764

【年代別】



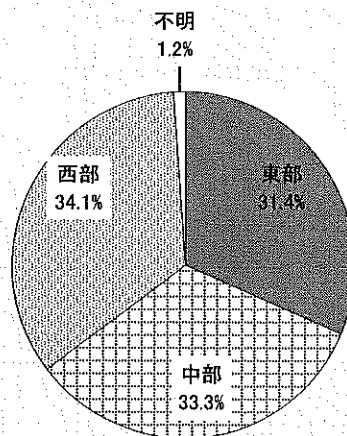
件数=764

【職業別】



件数=764

【地区別】



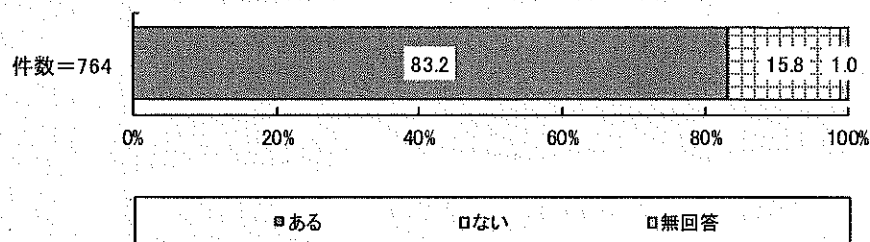
件数=764

Ⅱ 設問別の結果

1 文化・芸術の鑑賞について

1-1 メディアによる鑑賞機会

問1 あなたは、昨年1年間に、メディア(テレビ、インターネット、DVD、電子・紙媒体書籍等)を通して、文化・芸術を鑑賞する機会がありましたか。



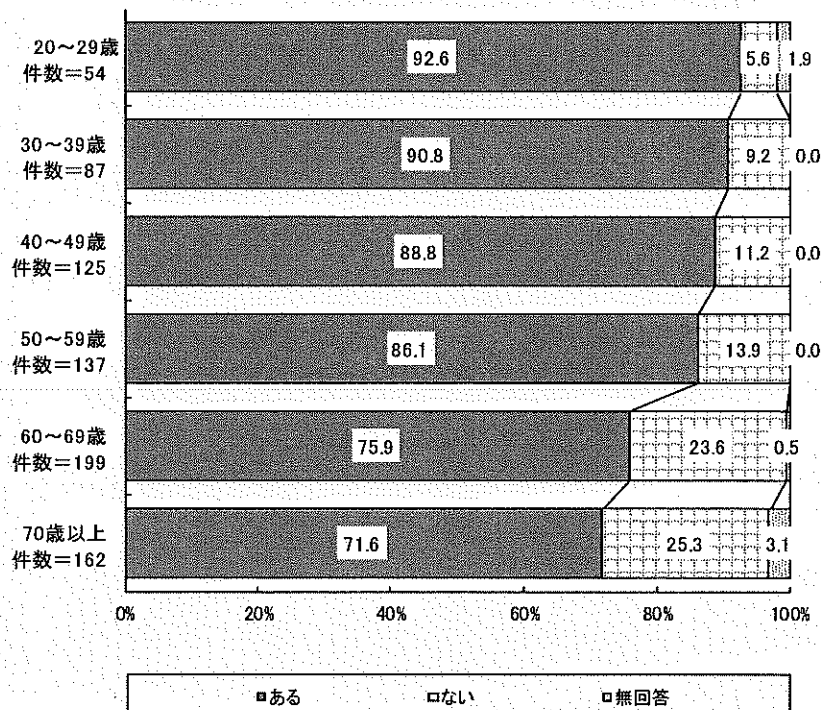
<全体>

昨年1年間に文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」と回答した割合は83.2%で、「ない」と「無回答」の合計は16.8%であった。

<年代別>

文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした割合の第1位は20歳代の92.6%で、次いで30歳代の90.8%、40歳代の88.8%となっている。70歳以上は71.6%と、最も低い割合となっている。

【図1-1-i 年代別 1年間にメディアで鑑賞した比率】

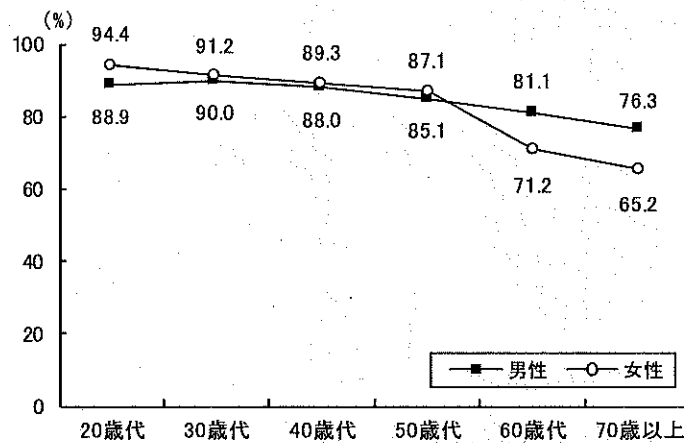


<性・年代別>

文化・芸術を鑑賞する機会があったと回答した人を性・年代別でみると、60歳代、70歳以上を除く年代で女性の方が男性よりも鑑賞した割合が高い。60歳代では9.9ポイント、70歳以上では11.1ポイント男性が女性を上回っている。

男性は30歳代が鑑賞した割合が最も高く、女性は20歳代が第1位となっている。また、男女とも70歳以上が最も低く、特に女性は7割を下回っている。

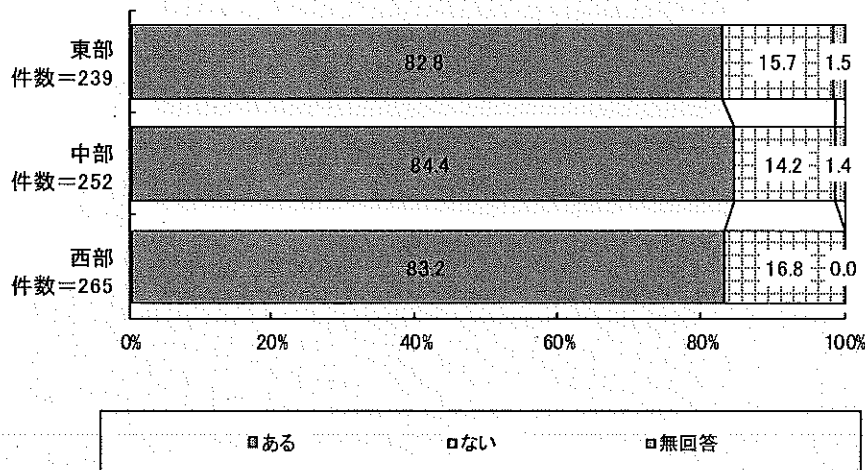
【図1-1-ii 性・年代別 1年間にメディアで鑑賞した比率】



<地区別>

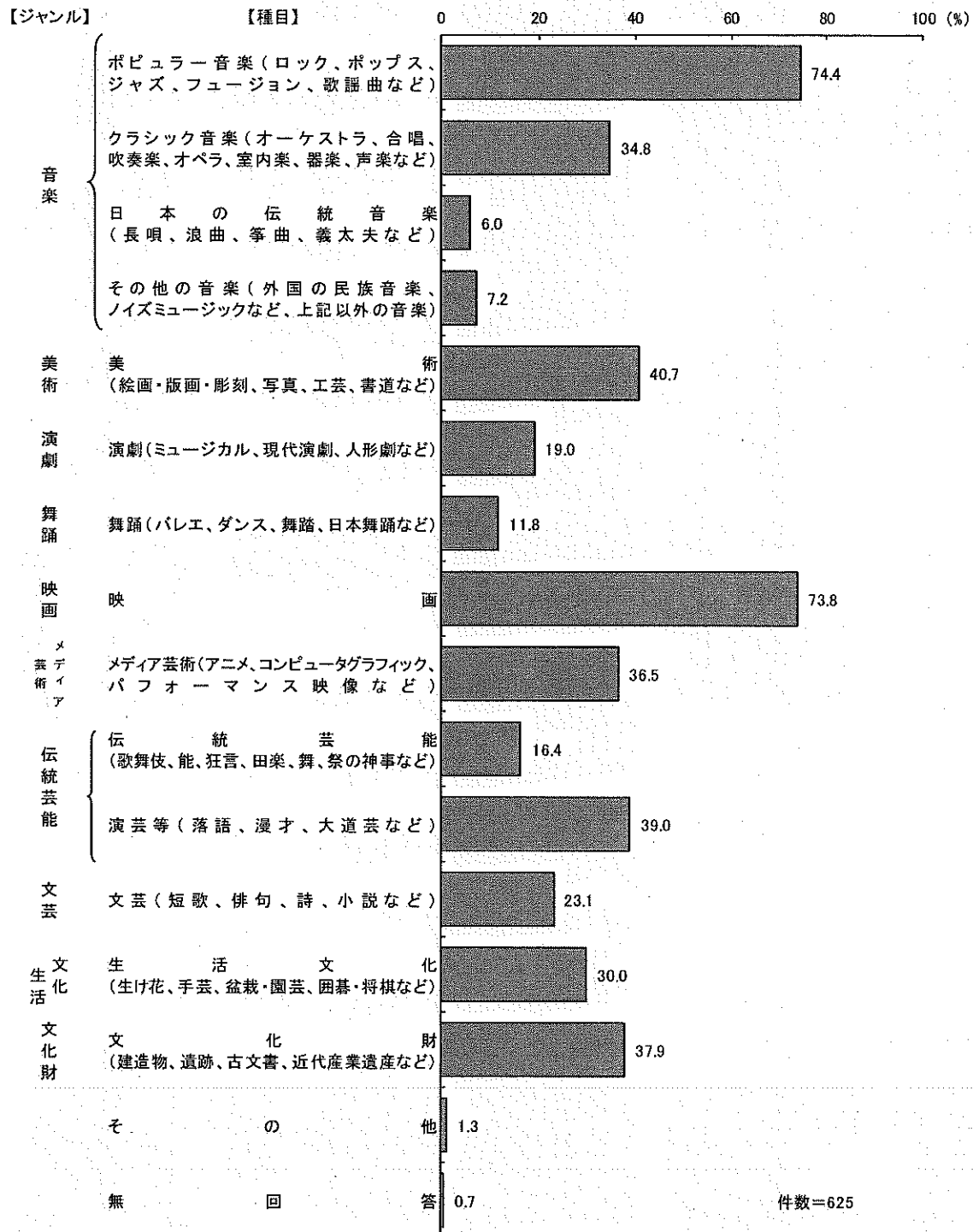
文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」とした割合は中部地区が84.4%と最も高く、次いで西部地区の83.2%、東部地区の82.8%となっている。

【図1-1-iii 地区別 1年間のメディアによる鑑賞機会の有無】



1-2 メディアによる鑑賞内容

問2 問1で「1. ある」と回答された方にお聞きします。昨年1年間に、メディア(テレビ、インターネット、DVD、電子・紙媒体書籍等)を通して鑑賞された文化・芸術はどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



<全体>

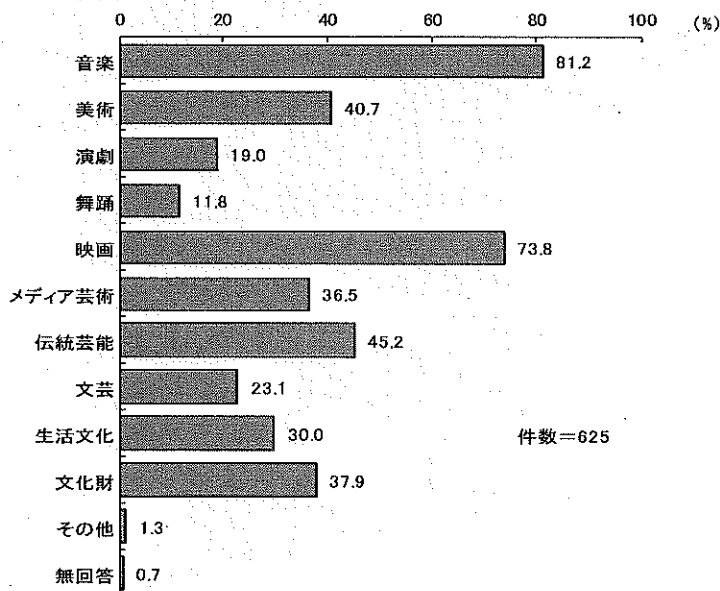
昨年1年間にメディアを通して文化・芸術を鑑賞する機会が「ある」と回答した人（625人）の鑑賞内容は、第1位が「ポピュラー音楽（ロック、ポップス、ジャズ、フュージョン、歌謡曲など）」で74.4%、次いで「映画」が73.8%、「美術（絵画・版画・彫刻、写真、工芸、書道など）」が40.7%で続いている。

<ジャンル別>

第1位は「音楽」が81.2%、次いで「映画」73.8%、「伝統芸能」45.2%、「美術」40.7%の順となり、この上位4ジャンルが4割以上となって他のジャンルより高い割合となっている。一方で、「演劇」、「舞踊」などは、昨年1年間にメディアを通して鑑賞する機会が少ないジャンルであった。

なお、同一ジャンルで複数種目の回答があるため、各ジャンルの数値は各種目の総和にはならない（以下同様）。

【図1-2-i メディアによる鑑賞ジャンル】



※過去の調査では、「演劇」「伝統芸能」「演芸等」が『演劇』というジャンルに統合されていたが、本調査では「演劇」を『演劇』、「伝統芸能」「演芸等」を『伝統芸能』と区分けしている。また、「映画」「メディア芸術」は『映画』に統合されていたが、これも「映画」は『映画』、「メディア芸術」は『メディア芸術』に区分けした（以下同様）。

＜性・年代別 鑑賞内容の上位種目＞

鑑賞をした種目を性・年代別でみると、第1位は、男性の20歳代、40歳代、50歳代が「映画」で、30歳代が「ポピュラー音楽」、60歳代は「映画」「ポピュラー音楽」が同率となり、70歳以上が「演芸等」となっている。また、女性は20歳代から50歳代までが「映画」で、60歳代、70歳以上が「ポピュラー音楽」となった。第2位は、男性の20歳代と、40歳代、50歳代、70歳以上が「ポピュラー音楽」、30歳代が「映画」となった。女性は20歳代から50歳代までが「ポピュラー音楽」で、60歳代が「映画」、70歳以上が「生活文化」となった。

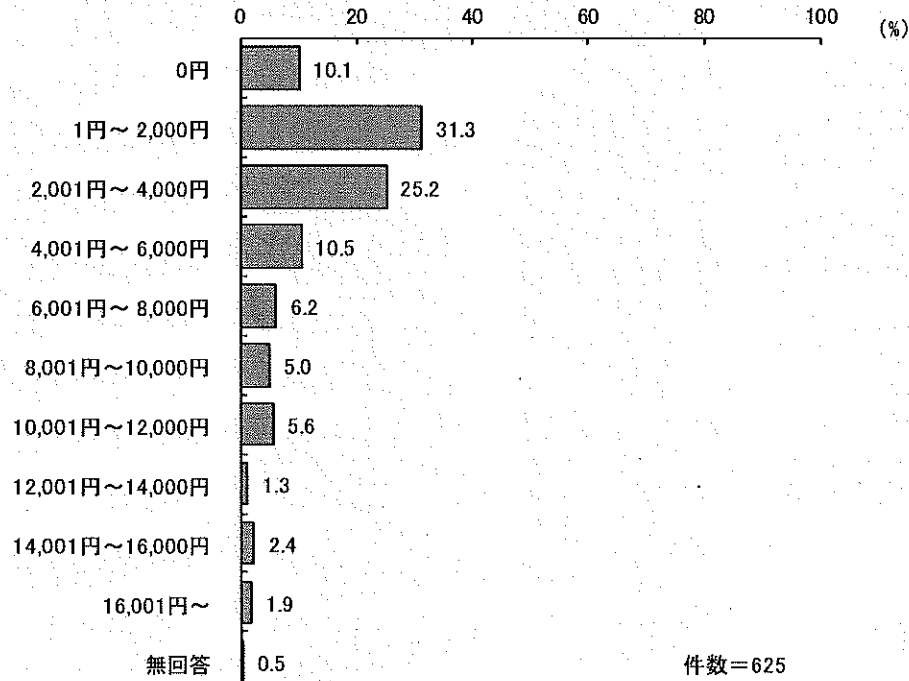
【図1-2-ii 性・年代別 メディアによる鑑賞内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20～29歳	16	映画 87.5	ポピュラー音楽 81.3	メディア芸術 75.0	演芸等 37.5	演劇 25.0
	30～39歳	27	ポピュラー音楽 81.5	映画 74.1	メディア芸術/クラシック音楽 51.9		演芸等 40.7
	40～49歳	44	映画 88.6	ポピュラー音楽 84.1	メディア芸術/美術 52.3		文化財 45.5
	50～59歳	57	映画 80.7	ポピュラー音楽 78.9	文化財 52.6	メディア芸術 45.6	美術 40.4
	60～69歳	77	映画/ポピュラー音楽 70.1		文化財 54.5	美術 53.2	演芸等 48.1
	70歳以上	71	演芸等 71.8	ポピュラー音楽 69.0	映画 66.2	文化財 62.0	美術 53.5
女性	20～29歳	34	映画 82.4	ポピュラー音楽 73.5	メディア芸術 61.8	美術 38.2	クラシック音楽 29.4
	30～39歳	52	映画 86.5	ポピュラー音楽 80.8	メディア芸術 51.9	クラシック音楽 28.8	美術 21.2
	40～49歳	67	映画 76.1	ポピュラー音楽 71.6	メディア芸術 44.8	クラシック音楽 35.8	文芸 31.3
	50～59歳	61	映画 75.4	ポピュラー音楽 72.1	美術 47.5	文化財 42.6	演芸等 37.7
	60～69歳	74	ポピュラー音楽 64.9	映画 56.8	美術 55.4	文化財 51.4	生活文化 48.6
	70歳以上	45	ポピュラー音楽 71.1	生活文化 57.8	演芸等 55.6	美術 53.3	クラシック音楽 51.1

1-3 メディアによる鑑賞への月間支出額

問3 問1で「1. ある」と回答された方にお聞きします。あなたは、昨年1年間でメディアを通じた文化・芸術鑑賞のために、1か月平均いくら位お金(ダウンロード代、レンタル代、書籍購入代など)を支出していますか。次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



<全体>

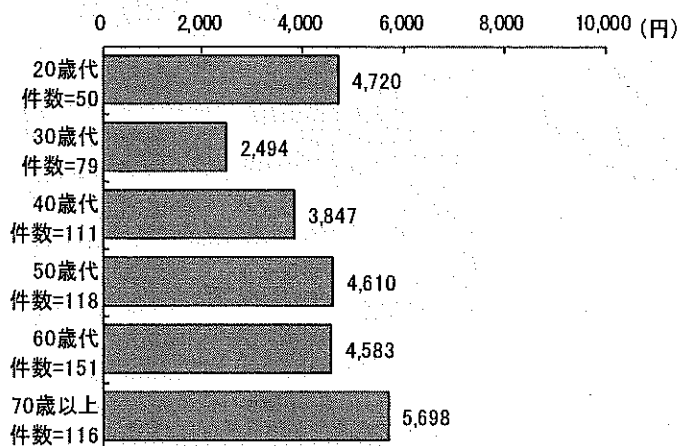
昨年1年間にメディアを通して文化・芸術鑑賞をする機会があった人(625人)の月間平均支出額(ダウンロード代、レンタル代、書籍購入代など)は、「1円～2,000円」が31.3%で最も高く、次いで「2,001円～4,000円」25.2%、「4,001円～6,000円」10.5%の順となっている。「16,001円以上」との回答は1.9%であった。

<年代別>

文化・芸術鑑賞への1人当たりの月間平均支出額は右のグラフの通りとなった（算出方法は下記参照）。

年代別でみると、70歳以上が最も多く、5,698円となっている。
以下、20歳代、50歳代、60歳代と続いている。

【図1-3-i 年代別 メディアによる鑑賞への月間支出額】

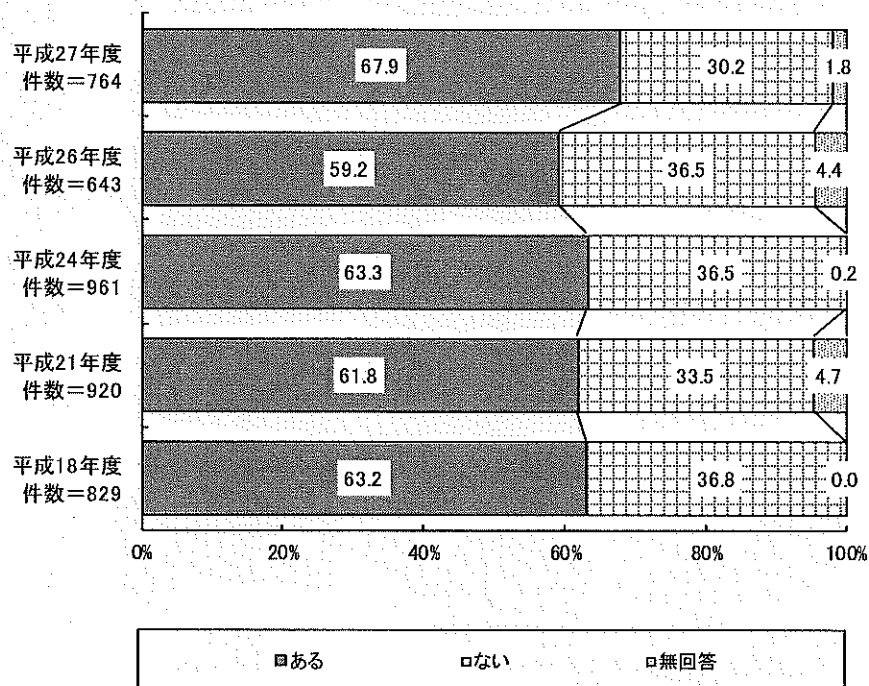


計算方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。（例：1,000円、3,000円）
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③上記の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

1-4 直接鑑賞機会

問4 あなたは、昨年1年間に、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などの会場で、直接、文化・芸術を鑑賞する機会がありましたか。



<全体>

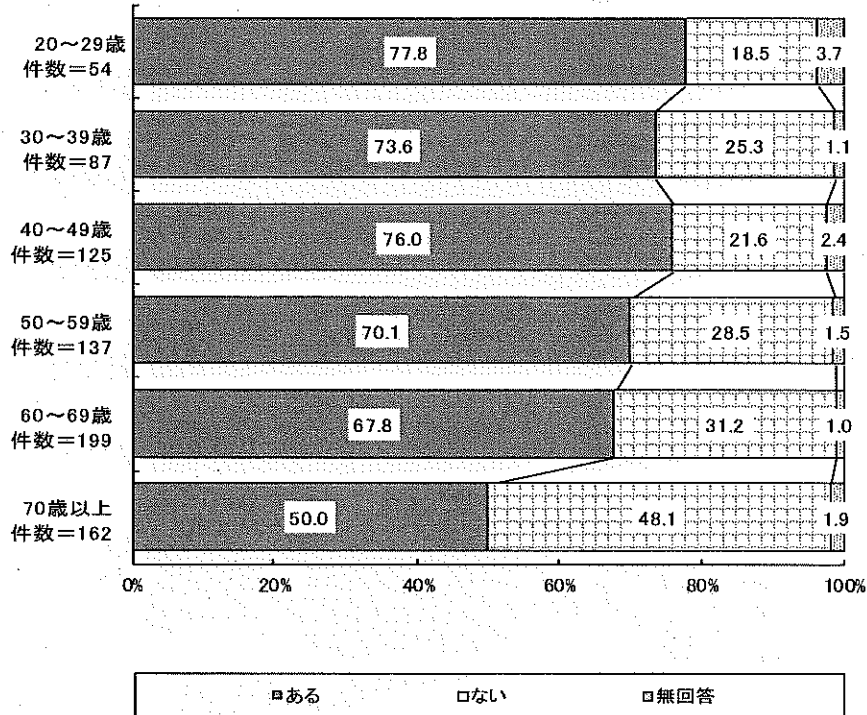
昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」と回答した割合は67.9%で、「ない」と「無回答」の合計は32.0%であった。

過去の調査と比較すると、文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした人は前回の59.2%から8.7ポイント高くなり、過去5年間で最も高くなった。

<年代別>

文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした割合の第1位は20歳代の77.8%で、次いで40歳代の76.0%、30歳代の73.6%となっている。70歳以上では50.0%と半数にとどまっている。

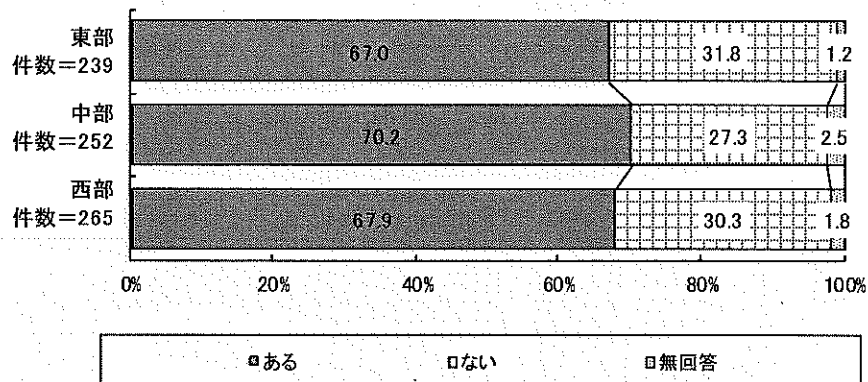
【図1-4-i 年代別 1年間の直接鑑賞機会の有無】



<地区別>

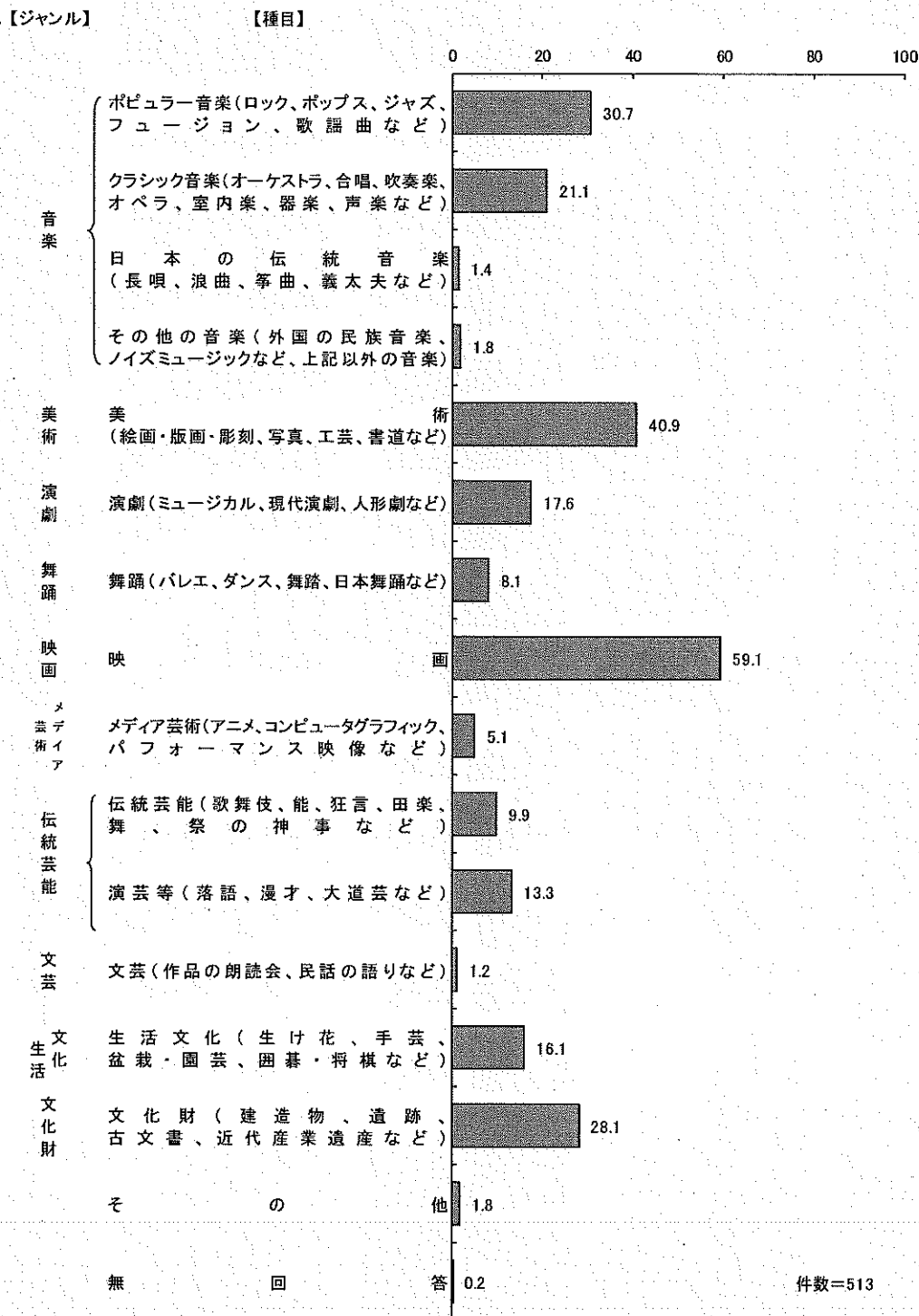
文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」とした割合は中部地区が70.2%と最も高く、次いで西部地区の67.9%、東部地区の67.0%となっている。

【図1-4-ii 地区別 1年間の直接鑑賞機会の有無】



1-5 直接鑑賞した内容

問5 問4で「1. ある」と回答された方にお聞きします。昨年1年間に、直接鑑賞された文化・芸術は次のどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-5-i 直接鑑賞した種目】

		＜調査年度＞					(%)
【ジャンル】	【種目】	H18	H21	H24	H26	H27	
音楽	ポピュラー	30.9	27.2	28.3	30.2	30.7	
	クラシック	25.2	25.5	20.5	21.4	21.1	
	伝統音楽	5.2	4.6	5.6	2.8	1.4	
	その他音楽	3.8	4.2	3.2	3.8	1.8	
美術	美術	50.8	49.0	50.5	46.2	40.9	
演劇	演劇	19.1	19.2	17.2	16.0	17.6	
舞踊	舞踊	10.9	10.5	8.0	9.6	8.1	
映画	映画	55.5	59.4	60.9	53.5	59.1	
メディア芸術	メディア芸術	4.0	3.2	2.8	2.5	5.1	
伝統芸能	伝統芸能	7.3	6.2	6.2	8.9	9.9	
	演芸等	11.8	17.4	13.4	14.8	13.3	
文芸	文芸	2.5	3.9	4.1	4.7	1.2	
生活文化	生活文化	26.9	23.6	20.0	26.0	16.1	
文化財	文化財	23.7	20.9	22.3	29.5	28.1	
その他		2.5	4.0	1.4	2.9	1.8	
無回答		0.6	1.4	0.8	0.0	0.2	

＜全体＞

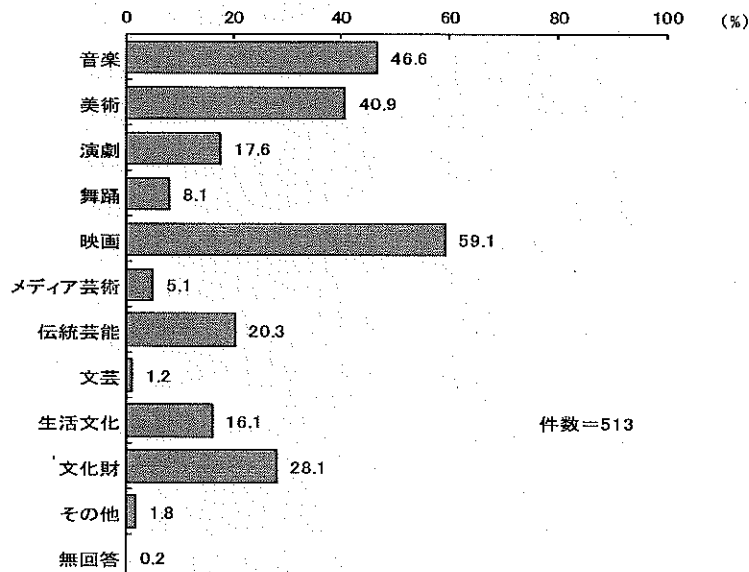
昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会が「ある」と回答した人（513人）の鑑賞内容は、第1位が「映画」で59.1%、次いで「美術（絵画・版画・彫刻、写真、工芸、書道の展覧会など）」が40.9%、「ポピュラー音楽（ロック、ポップス、ジャズ、フュージョン、歌謡曲など）」が30.7%で続いている。

過去の調査と比較すると、「ポピュラー音楽」の割合は平成21年度以降、年々増加が続いている。一方、「美術」、「日本の伝統音楽（長唄、浪曲、箏曲、義太夫など）」などは平成24年度以降減少傾向にある。

＜ジャンル別＞

第1位が「映画」で59.1%、次いで「音楽」46.6%、「美術」40.9%の順となり、この上位3ジャンルが4割以上となって他のジャンルより高い割合となっている。一方で、「舞踊」、「メディア芸術」「文芸」などは、昨年1年間に直接鑑賞する機会が少ないジャンルであった。

【図1-5-ii 直接鑑賞したジャンル】



<性・年代別 直接鑑賞内容の上位種目>

直接鑑賞した種目を性・年代別で見ると、第1位は、男性の20歳代から60歳代までが「映画」で、70歳以上が「美術」となっている。また、女性は20歳代から50歳代までが「映画」で、60歳以上が「美術」となった。第2位は、男性の20歳代が「ポピュラー音楽」、30歳代から60歳代が「美術」（40歳代では「美術」「文化財」が同率）、70歳以上が「文化財」となった。女性は20歳代、50歳代が「ポピュラー音楽」、30歳代、40歳代が「美術」、60歳代が「映画」、70歳以上は「文化財」となった。

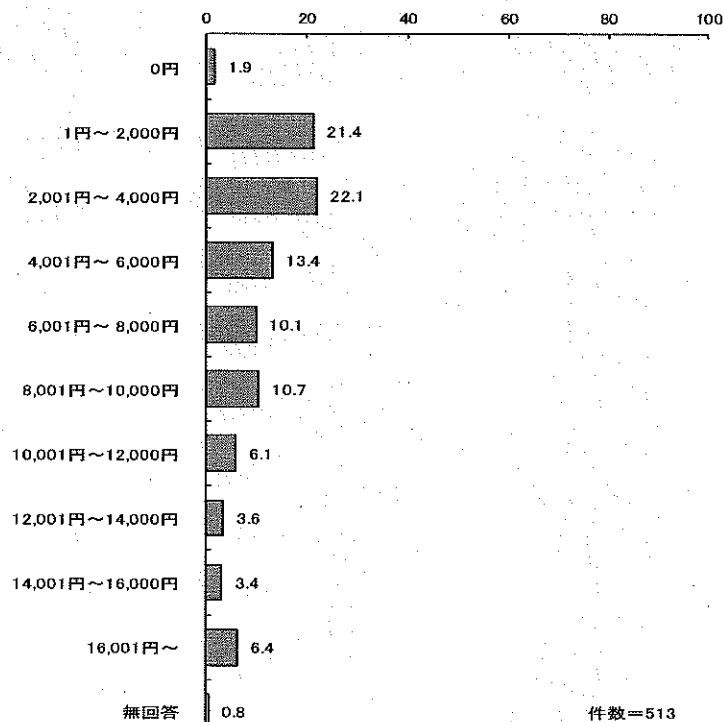
【図1-5-iii 性・年代別 直接鑑賞内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20～29歳	14	映画 85.7	ポピュラー音楽 35.7	演劇 21.4	文化財 14.3	生活文化 7.1
	30～39歳	23	映画 60.9	美術 34.8	ポピュラー音楽 30.4	演劇 21.7	演芸等 17.4
	40～49歳	36	映画 75.0	文化財/美術 44.4		ポピュラー音楽 19.4	演劇 13.9
	50～59歳	41	映画 75.6	美術 46.3	文化財 34.1	ポピュラー音楽 24.4	生活文化 14.6
	60～69歳	66	映画 59.1	美術 57.6	文化財 43.9	ポピュラー音楽 33.3	演芸等 25.8
	70歳以上	48	美術 58.3	文化財 43.8	生活文化/演芸等/映画/クラシック音楽 33.3		
女性	20～29歳	28	映画 67.9	ポピュラー音楽 39.3	美術 25.0	文化財/クラシック音楽 21.4	
	30～39歳	41	映画 63.4	美術 31.7	ポピュラー音楽 26.8	クラシック音楽 22.0	演劇/メディア芸術/文化財 12.2
	40～49歳	59	映画 61.0	美術 37.3	クラシック音楽 32.2	ポピュラー音楽 28.8	演劇 22.0
	50～59歳	55	映画 67.3	ポピュラー音楽 38.2	文化財 34.5	美術 32.7	演劇 25.5
	60～69歳	69	美術 56.5	映画 44.9	文化財/生活文化 31.9		ポピュラー音楽 27.5
	70歳以上	33	美術 54.5	生活文化 39.4	クラシック音楽/ポピュラー音楽 33.3		映画/演芸等 24.2

1-6 直接鑑賞への1公演平均支出額

問6 問4で「1. ある」と回答された方にお聞きします。あなたは、昨年1年間で文化・芸術鑑賞のために、1公演平均いくら位お金(チケット代、交通費など)を支出していますか。次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



【図1-6-i 直接鑑賞への1公演平均支出額】

<調査年度>

(%)

【項目】	H18	H21	H24	H26	H27
0円	5.5	4.2	3.6	2.5	1.9
1円～2,000円	38.4	37.8	30.4	17.7	21.4
2,001円～4,000円	27.5	26.2	28.6	19.7	22.1
4,001円～6,000円	13.5	13.5	13.2	14.7	13.4
6,001円～8,000円	5.0	6.5	6.6	9.0	10.1
8,001円～10,000円	2.3	3.5	6.2	10.3	10.7
10,001円～12,000円	2.7	4.0	3.3	5.5	6.1
12,001円～14,000円	1.1	0.7	1.9	3.4	3.6
14,001円～16,000円	1.3	1.2	1.9	6.5	3.4
16,001円～	1.9	1.2	3.3	9.3	6.4
無回答	0.8	1.1	1.0	1.4	0.8

<全体>

昨年1年間に文化・芸術鑑賞をする機会があった人（513人）の文化・芸術鑑賞に関する1公演当たりの平均支出額は、「2,001円～4,000円」が22.1%で最も多く、次いで「1円～2,000円」21.4%、「4,001円～6,000円」13.4%の順となっている。「16,001円以上」との回答は6.4%であった。

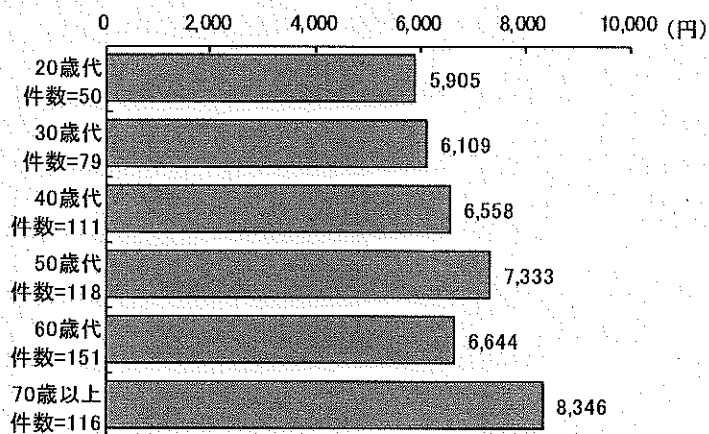
過去の調査と比較すると、「0円」と回答する割合は減少傾向にあり、一方で「6,001円～8,000円」、「8,001円～10,000円」、「10,001円～12,000円」、「12,001円～14,000円」などの価格帯ではわずかながら増加傾向がうかがえる。また、「16,001円以上」は前回の調査から2.9ポイント減となっている。

<年代別>

文化・芸術鑑賞への1人当たりの1公演平均平均支出額は右のグラフの通りとなった（算出方法は下記参照）。

年代別でみると、70歳以上が最も多く、8,346円となっている。以下、50歳代、40歳代、60歳代と続いている。

【図1-6-ii 年代別 直接鑑賞への1公演平均支出額】

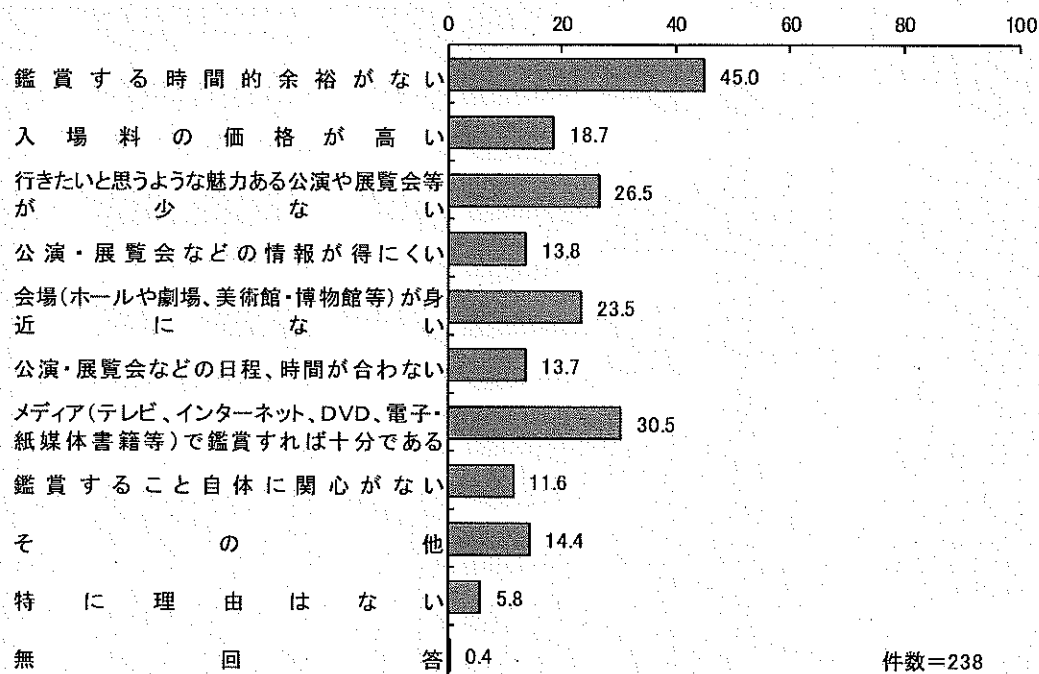


計算方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。（例：1,000円、3,000円）
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③上記の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

1-7 直接鑑賞しなかった理由

問7 問4で「2. ない」と回答された方にお聞きします。昨年、あなたが鑑賞に出かけなかったのは、どのような理由からですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-7-i 直接鑑賞しなかった理由】

【項目】	<調査年度> (%)		
	H24	H26	H27
鑑賞する時間的余裕がない	50.1	34.7	45.0
入場料の価格が高い	19.0	10.4	18.7
行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない	24.6	18.2	26.5
公演・展覧会などの情報が得にくい	20.6	11.0	13.8
会場が身近にない	22.1	15.4	23.5
公演・展覧会などの日程、時間が合わない	-	7.6	13.7
メディアで鑑賞すれば十分である	15.8	10.6	30.5
鑑賞すること自体に関心がない	14.8	13.7	11.6
その他	5.4	11.0	14.4
特に理由はない	9.1	6.6	5.8
無回答	1.8	12.8	0.4

<全体>

昨年1年間に文化・芸術鑑賞をしなかった人（238人）の理由の第1位は、「鑑賞する時間的余裕がない」が45.0%と最も高く、次いで「メディア（テレビ、インターネット、DVD、電子・紙媒体書籍等）で鑑賞すれば十分である」が30.5%、「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」が26.5%と続いている。また、「会場（ホールや劇場、美術館、博物館等）が身近にない」も23.5%と2割超となっている。

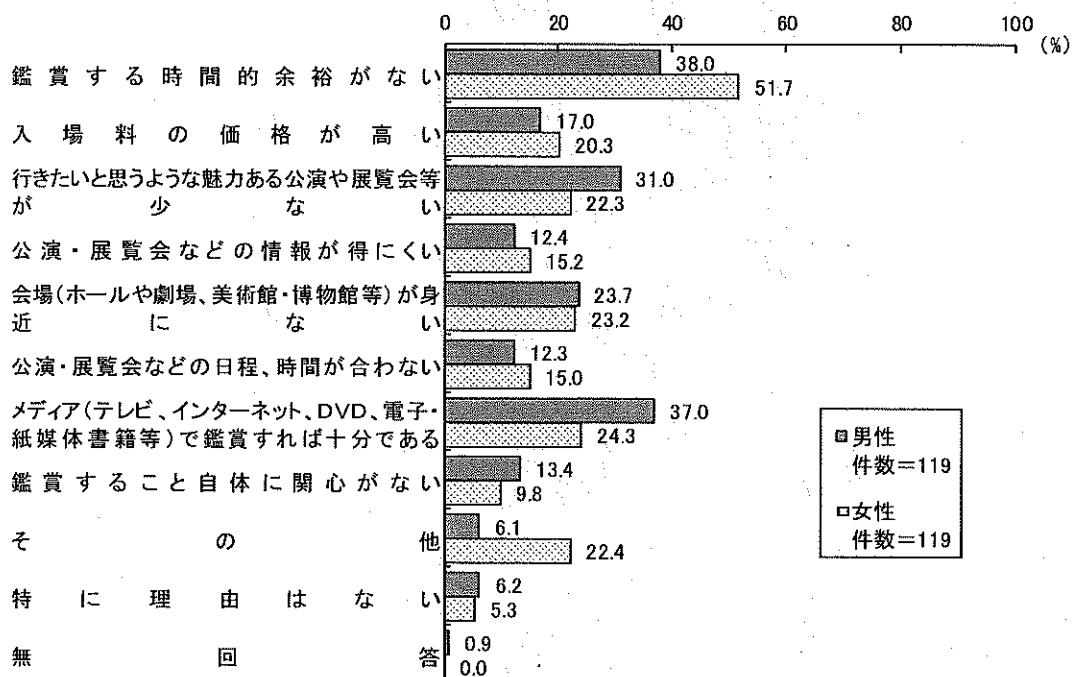
一方、「特に理由はない」は5.8%となっている。

<性別>

男性の第1位は「鑑賞する時間的余裕がない」が38.0%に上り、次いで「メディアで鑑賞すれば十分である」37.0%、「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」31.0%の順となっている。

女性の第1位は「鑑賞する時間的余裕がない」が51.7%と半数を超え、次いで「メディアで鑑賞すれば十分である」24.3%、「会場が身近にない」23.2%、「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」22.3%、「入場料の価格が高い」20.3%と続き、いずれも20%を超えている。「鑑賞すること自体に関心がない」は、男性は13.4%で、女性の9.8%を上回っている。

【図1-7-ii 性別 直接鑑賞しなかった理由】

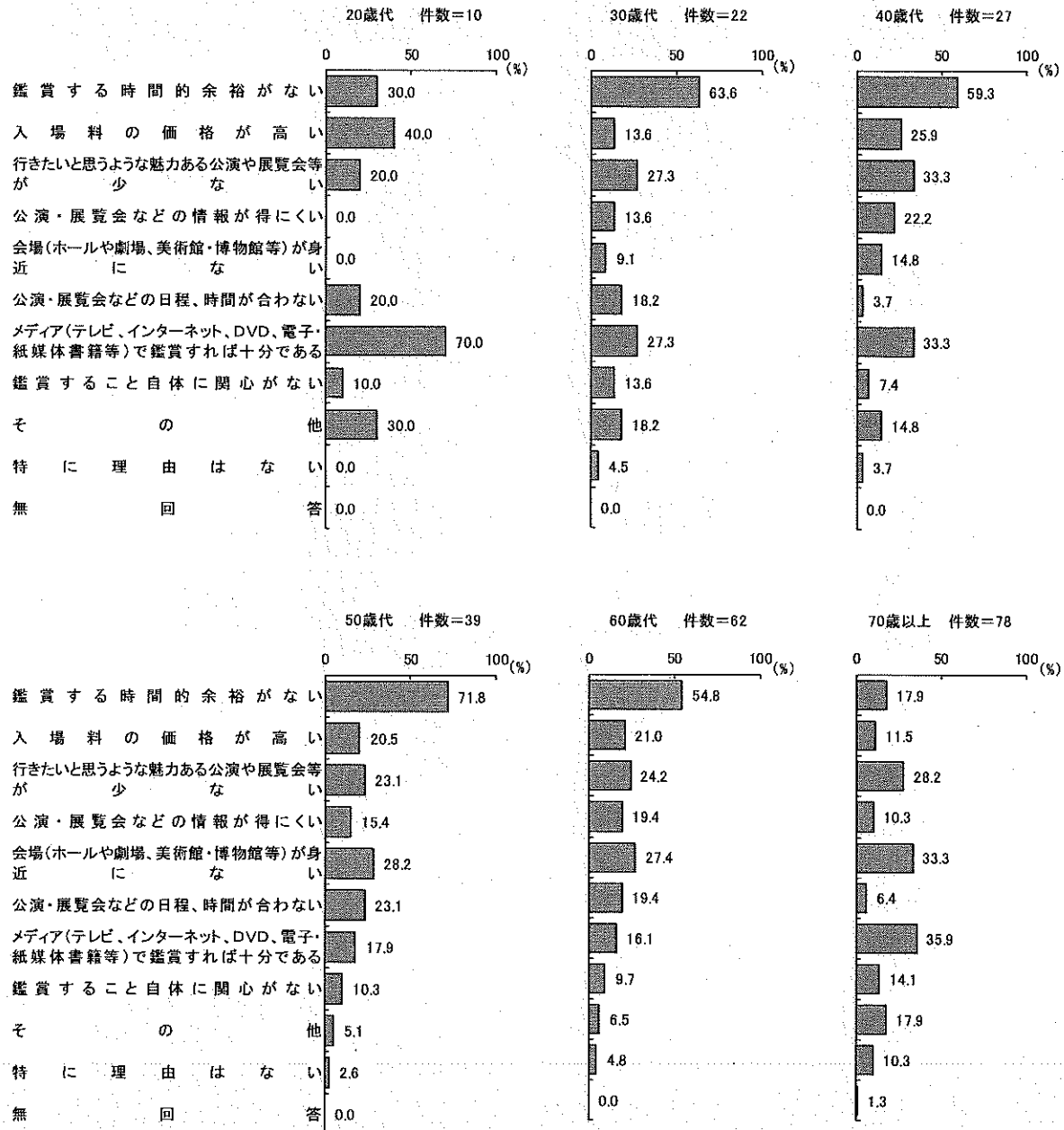


<年代別>

「鑑賞する時間的余裕がない」が30歳代から60歳代までで半数を超え、第1位となっており、50歳代では71.8%と比較的高い割合を占めている。20歳代と70歳以上では「メディアで鑑賞すれば十分である」がともに第1位となったが、20歳代では70.0%と突出しているのに対し、70歳以上では35.9%で、第2位の「会場が身近にない」33.3%と大きな差はみられない。

また、「会場が身近にない」は50歳代から70歳以上で3割前後となって、40歳代以下に比べて高い割合となっている。

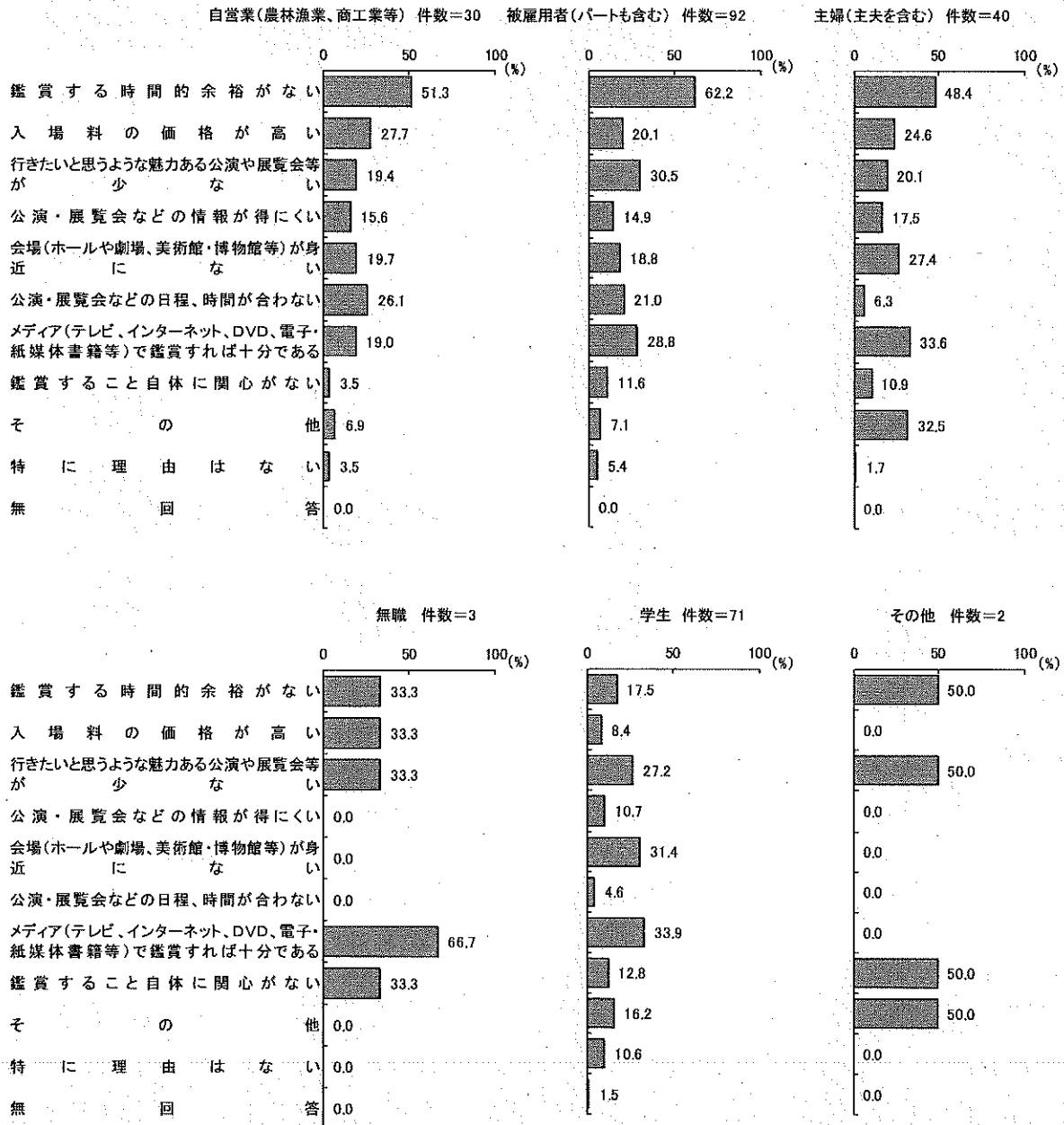
【図1-7-iii 年代別 直接鑑賞しなかった理由】



<職業別>

「鑑賞する時間的余裕がない」は、自営業（農林漁業、商工業等）、被雇用者（パートも含む）、主婦（主夫を含む）のいずれにおいても第1位の項目となっている。これに次いで、自営業（農林漁業、商工業等）では「入場料の価格が高い」、被雇用者（パートも含む）では「行きたいと思うような魅力的な公演や展覧会等が少ない」、主婦（主夫を含む）では「メディアで鑑賞すれば十分である」が続いている。無職、学生では「メディアで鑑賞すれば十分である」が最も高い。

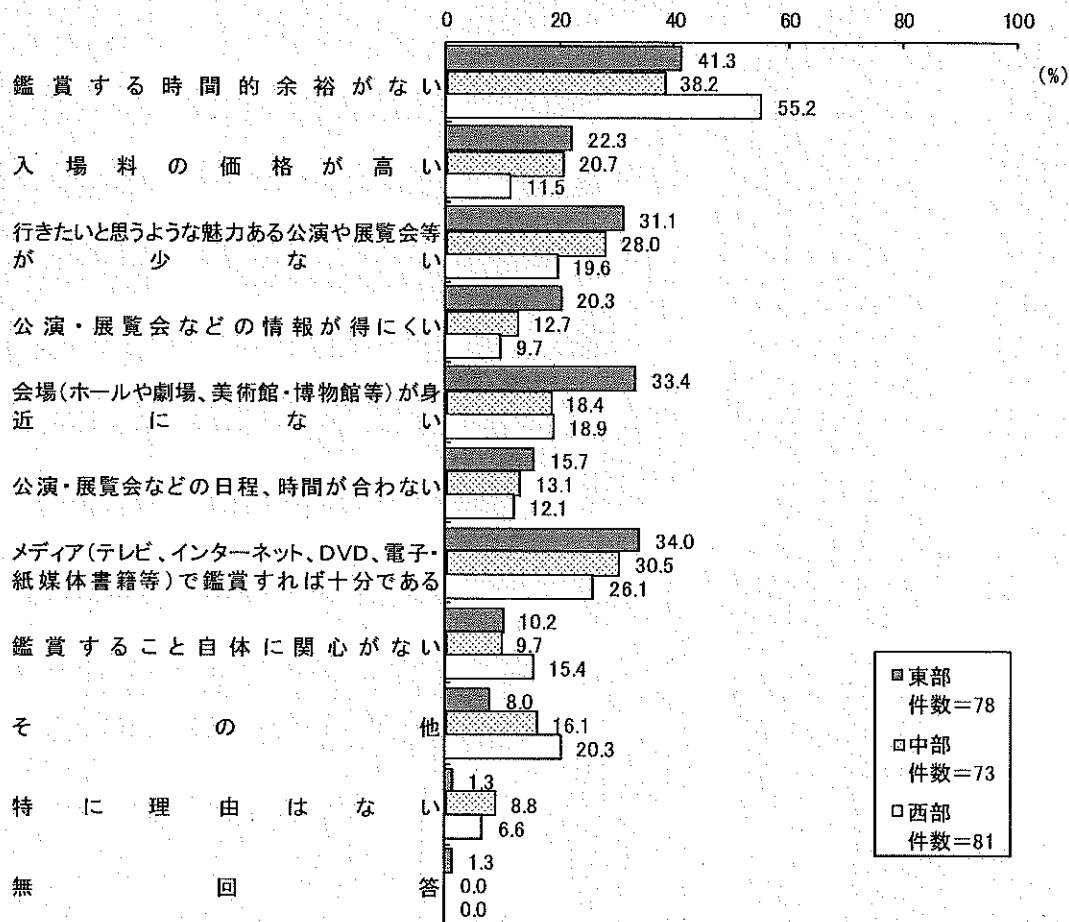
【図1-7-iv 職業別 直接鑑賞しなかった理由】



<地区別>

「鑑賞する時間的余裕がない」は東部地区41.3%、中部地区38.2%、西部地区55.2%となつて、特に西部地区では他の項目を引き離して高い割合を占めている。「行きたいと思うような魅力ある公演や展覧会等が少ない」は東部地区が31.1%と最も高く、次いで中部地区が28.0%、西部地区が19.6%となっている。「会場（ホールや劇場、美術館・博物館等）が身近にない」「公演・展覧会等の情報が得にくい」は東部地区でそれぞれ33.4%、20.3%といずれも比較的高くなっている。

【図1-7-v 地区別 直接鑑賞しなかった理由】

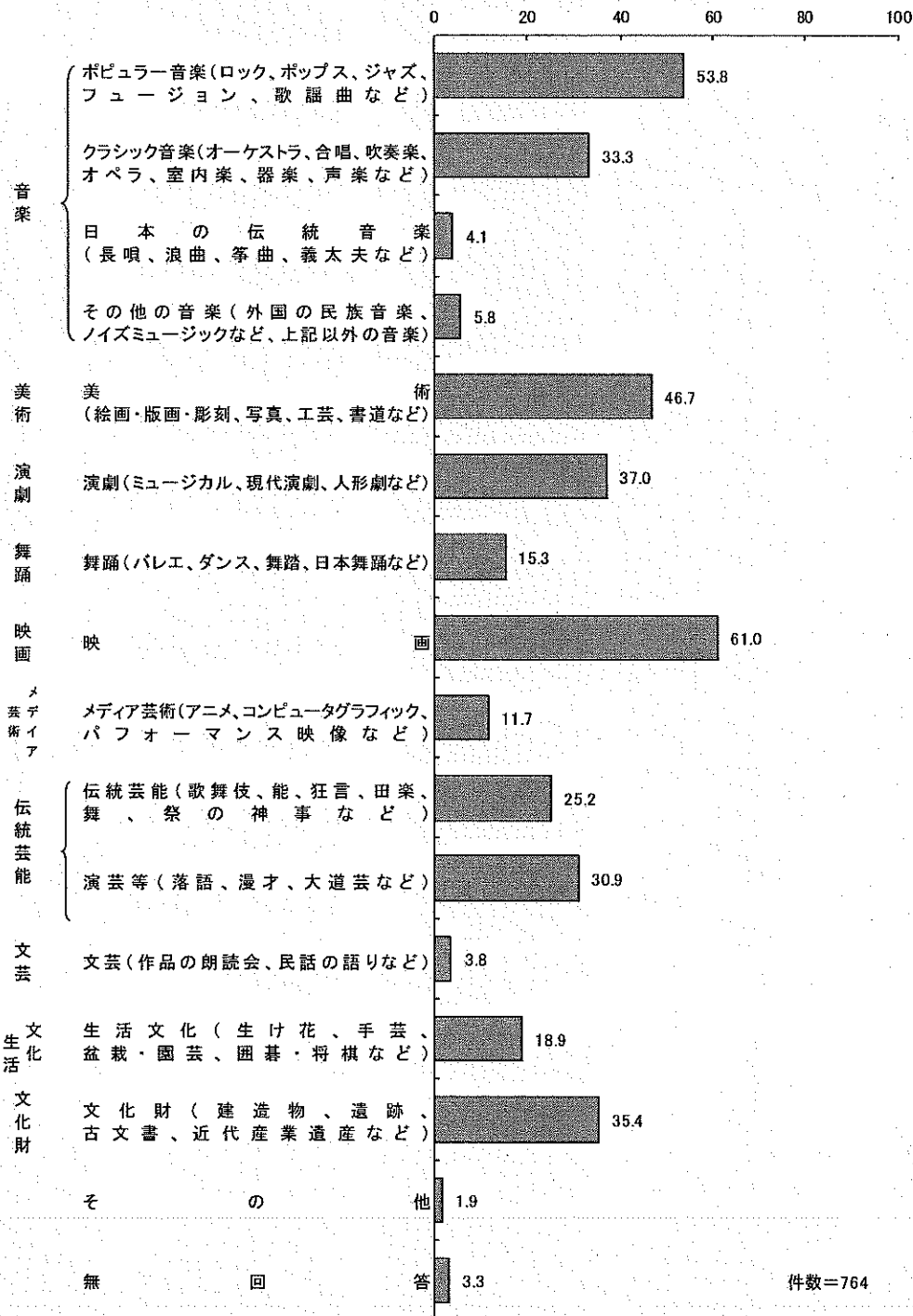


1-8 今後直接鑑賞したい内容

問8 あなたは、今後、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などで直接鑑賞したいと思っ
ているものはありますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。

【ジャンル】

【種目】



【図1-8-i 直接鑑賞したい内容】

<調査年度>

(%)

【ジャンル】	【種目】	H18	H21	H24	H26	H27
音楽	ポピュラー	43.4	42.9	43.3	41.0	53.8
	クラシック	37.0	33.7	31.5	30.2	33.3
	伝統音楽	7.6	7.0	6.5	7.8	4.1
	その他音楽	7.2	6.5	5.7	6.5	5.8
美術	美術	42.0	40.0	42.2	41.7	46.7
演劇	演劇	32.3	30.3	28.2	29.5	37.0
舞踊	舞踊	14.4	13.2	12.6	10.8	15.3
映画	映画	53.9	55.1	55.0	46.1	61.0
メディア芸術	メディア芸術	5.8	5.2	5.6	5.2	11.7
伝統芸能	伝統芸能	18.9	16.3	20.3	21.8	25.2
	演芸等	26.8	29.6	26.9	30.2	30.9
文芸	文芸	3.0	3.3	3.3	4.4	3.8
生活文化	生活文化	19.2	17.6	16.7	23.2	18.9
文化財	文化財	23.8	22.1	26.1	26.7	35.4
その他		2.2	1.0	0.6	1.3	1.9
無回答		0.5	3.7	3.0	3.3	3.3

<全体>

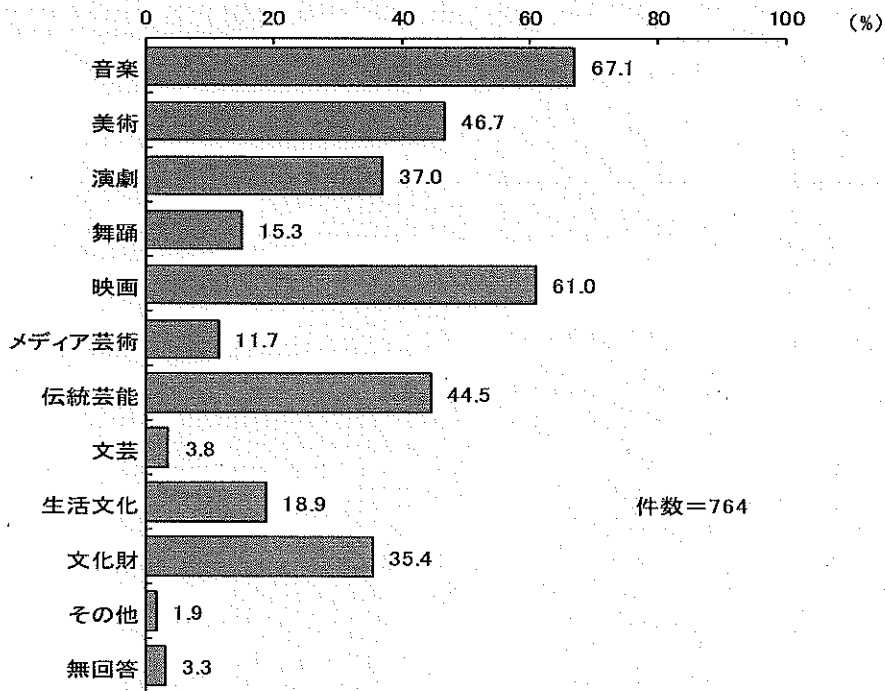
今後直接鑑賞したい種目の第1位は「映画」が61.0%と最も高く、次いで「ポピュラー音楽（ロック、ポップス、ジャズ、フュージョン、歌謡曲など）」が53.8%、「美術（絵画・版画・彫刻、写真、工芸、書道の展覧会など）」が46.7%、「文化財」が35.4%と続いている

過去の調査と比較すると「ポピュラー音楽」「映画」は平成26年度調査から、それぞれ10ポイント以上大きく増加した。一方、「日本の伝統音楽」「その他の音楽」「生活文化」「演芸等」「美術」は明確な変化はなく、「クラシック音楽」は減少傾向となっている。

<ジャンル別>

第1位が「音楽」で67.1%、次いで「映画」61.0%、「美術」46.7%、「伝統芸能」44.5%の順となっている。

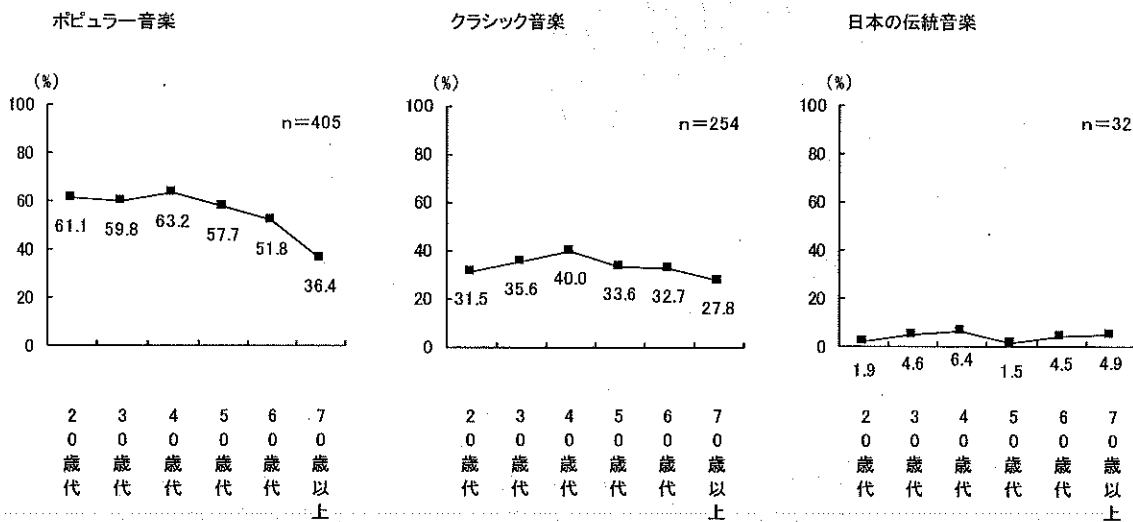
【図1-8-ii 直接鑑賞したいジャンル】



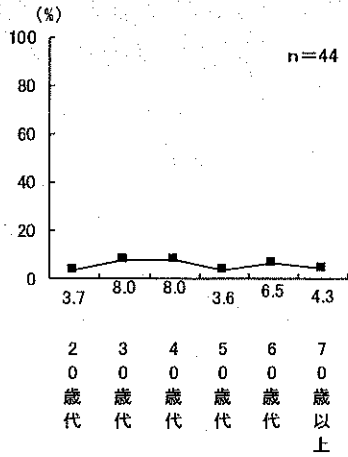
<年代別>

20歳代から60歳代までは「映画」、70歳以上は「美術」が第1位となった。「映画」「ポピュラー音楽」「演劇」などは概ね年齢が低いほど割合が高い傾向があり、「美術」「演芸等」「生活文化」などは概ね年齢が高いほど割合が高い傾向がある。

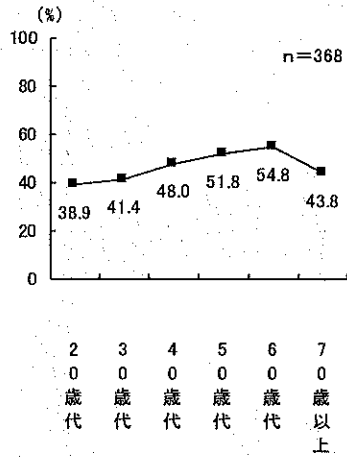
【図1-8-iii 年代別 直接鑑賞したい内容】



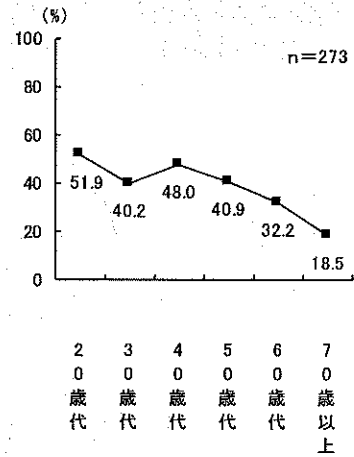
その他の音楽



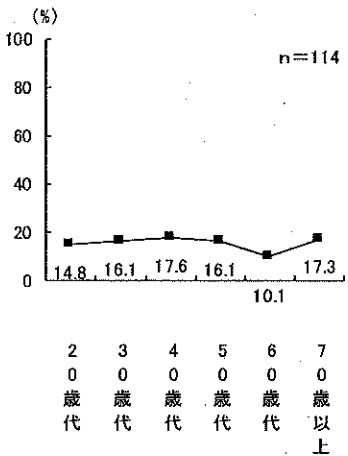
美術



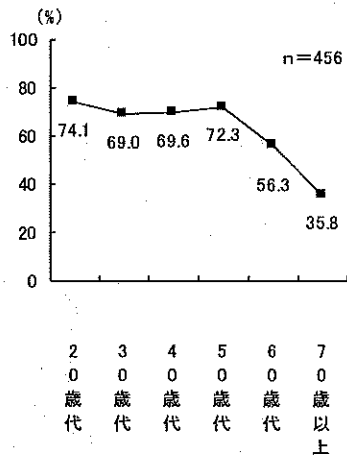
演劇



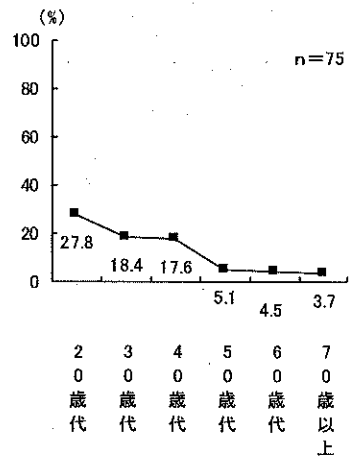
舞踊



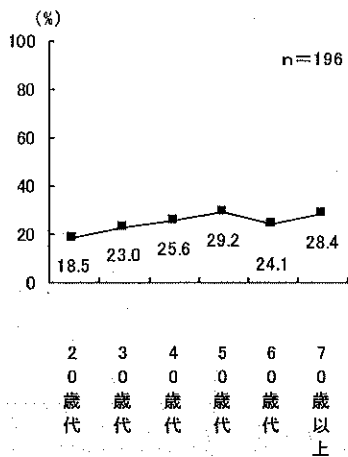
映画



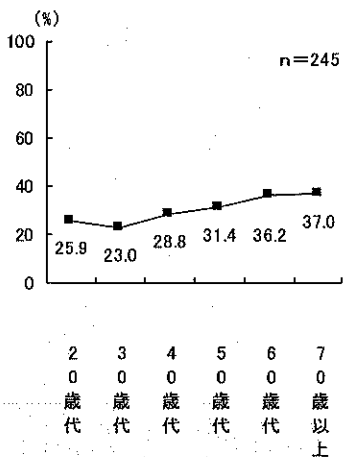
メディア芸術



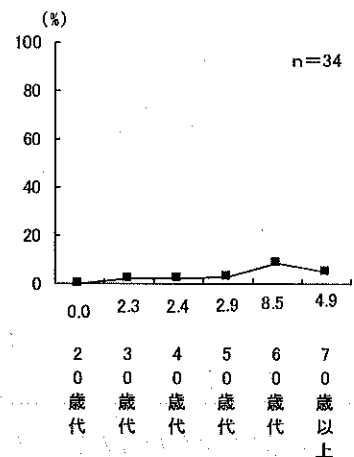
伝統芸能



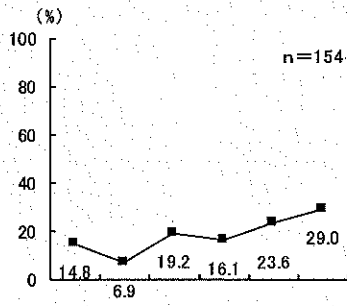
演芸等



文芸

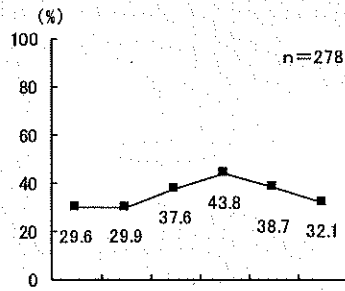


生活文化



20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上

文化財



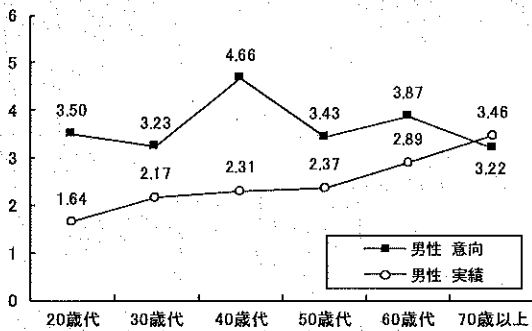
20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上

<直接鑑賞種目数平均との比較>

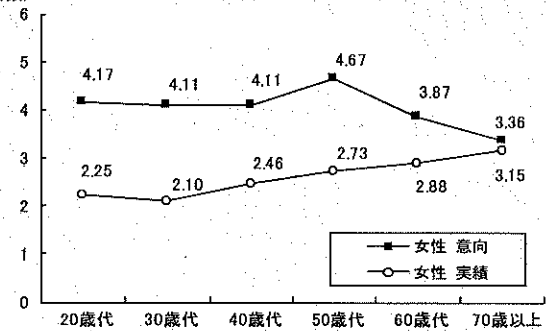
1-5の平均直接鑑賞種目数(実績)と今後直接鑑賞したい平均種目数(意向)を比較すると、男性では40歳代での今後直接鑑賞したい平均種目数は4.66種目、鑑賞した平均種目数は2.31種目となって、意向と実績の開きが最も大きい。女性では、30歳代が意向4.11種目に対して実績2.10種目と格差が最も大きくなっている。

【図1-8-iv 昨年1年間の平均直接鑑賞種目数(実績)と今後直接鑑賞したい平均種目数(意向)】

(種目数)



(種目数)



<性・年代別 直接鑑賞したい内容の上位種目>

今後直接鑑賞したい種目を性・年代別でみると、第1位は、男性では20歳代から60歳代で「映画」、70歳以上で「美術」となっている。女性は20歳代から50歳代で「映画」となり、60歳以上で「美術」となっている。第2位は、男性の20歳代から60歳代で「ポピュラー音楽」、70歳以上で「文化財」となった。女性は20歳代から40歳代で「ポピュラー音楽」、50歳代で「美術」、60歳代で「映画」、70歳以上で「生活文化」となっている。

【図1-8-v 性・年代別 直接鑑賞したい内容の上位種目】

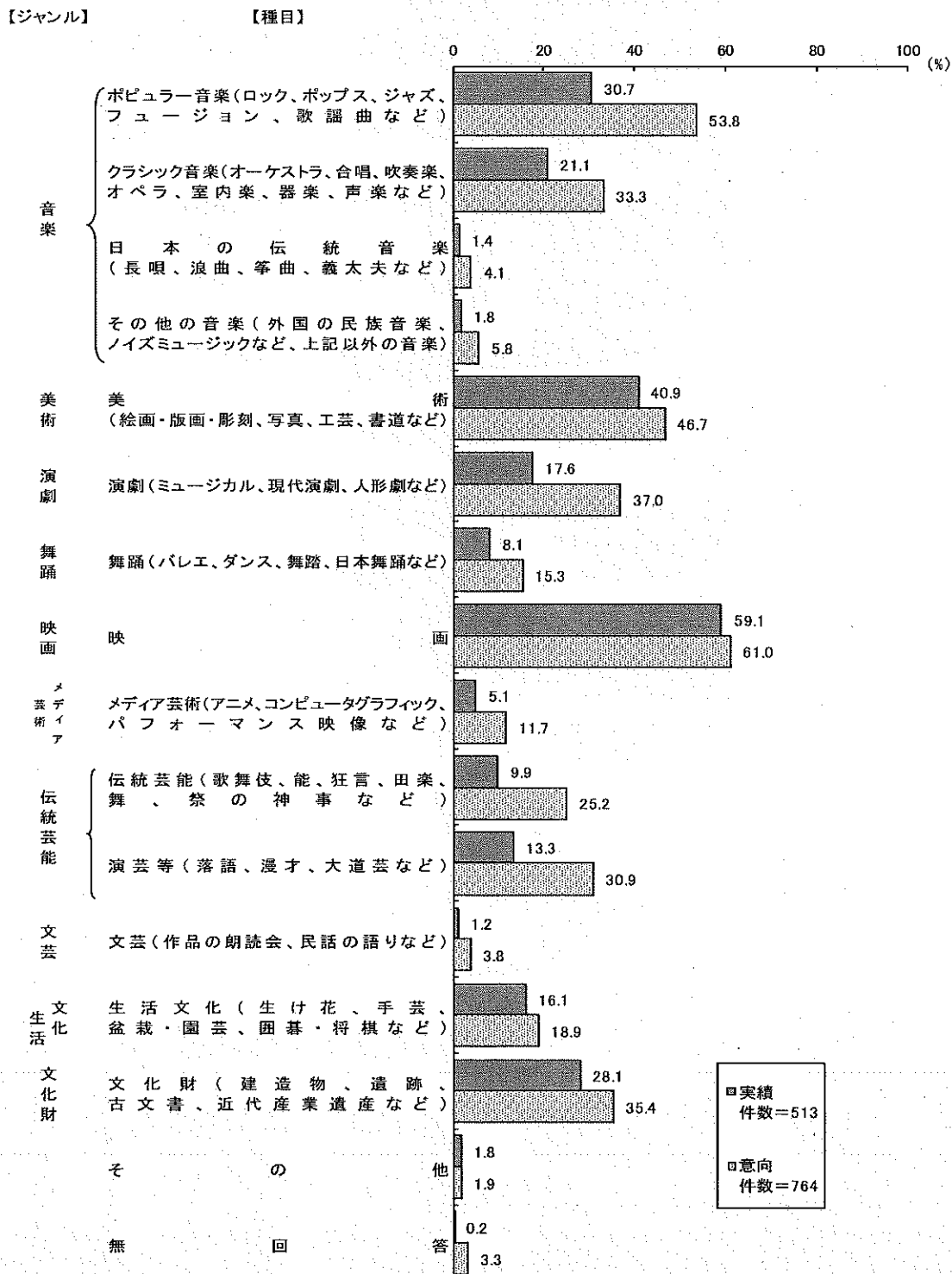
(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20~29歳	18	映画 88.9	ポピュラー音楽 61.1	メディア芸術/演劇 38.9	演芸等 33.3	
	30~39歳	30	映画 63.3	ポピュラー音楽 50.0	美術 43.3	演劇/クラシック音楽 30.0	
	40~49歳	50	映画 72.0	ポピュラー音楽 68.0	美術 52.0	文化財 48.0	演劇 40.0
	50~59歳	67	映画 76.1	ポピュラー音楽 61.2	美術 43.3	文化財 41.8	演芸等 31.3
	60~69歳	95	映画 68.4	ポピュラー音楽 62.1	美術 60.0	文化財 46.3	演芸等 38.9
	70歳以上	93	美術 45.2	文化財 41.9	映画 40.9	演芸等/ポピュラー音楽 39.8	
女性	20~29歳	36	映画 66.7	ポピュラー音楽 61.1	演劇 58.3	美術 50.0	クラシック音楽 38.9
	30~39歳	57	映画 71.9	ポピュラー音楽 64.9	演劇 45.6	美術 40.4	クラシック音楽 38.6
	40~49歳	75	映画 68.0	ポピュラー音楽 60.0	演劇 53.3	美術 45.3	クラシック音楽 44.0
	50~59歳	70	映画 68.6	美術 60.0	演劇 58.6	ポピュラー音楽 54.3	文化財/伝統芸能 45.7
	60~69歳	104	美術 50.0	映画 45.2	ポピュラー音楽 42.3	演劇 40.4	クラシック音楽 36.5
	70歳以上	69	美術 42.0	生活文化 36.2	演芸等 33.3	ポピュラー音楽 31.9	クラシック音楽/舞踊/伝統芸能 30.4

<直接鑑賞した内容との比較>

1-5の「昨年1年間の直接鑑賞実績」と今後直接鑑賞したい種目（鑑賞意向）を比較すると、意向が実績を大きく上回っている種目としては、「ポピュラー音楽」（+23.1ポイント）、「演劇」（+19.4ポイント）、「演芸等」（+17.6ポイント）、「伝統芸能」（+15.3ポイント）、「クラシック音楽」（+12.2ポイント）が挙げられる。実績に比べ、意向が下回っている種目は無かった。

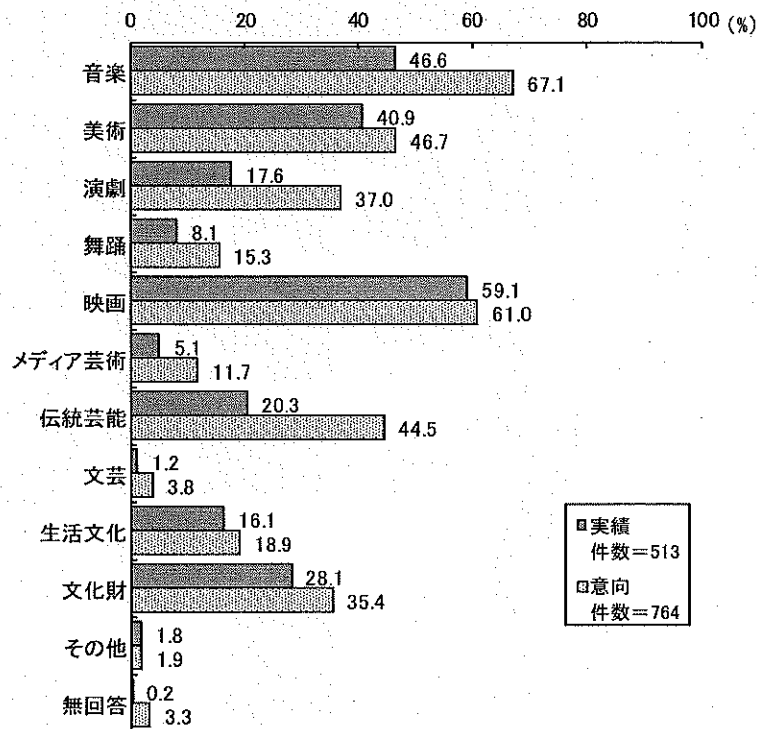
【図1-8-vi 直接鑑賞実績と直接鑑賞意向の比較】



<直接鑑賞したジャンルとの比較>

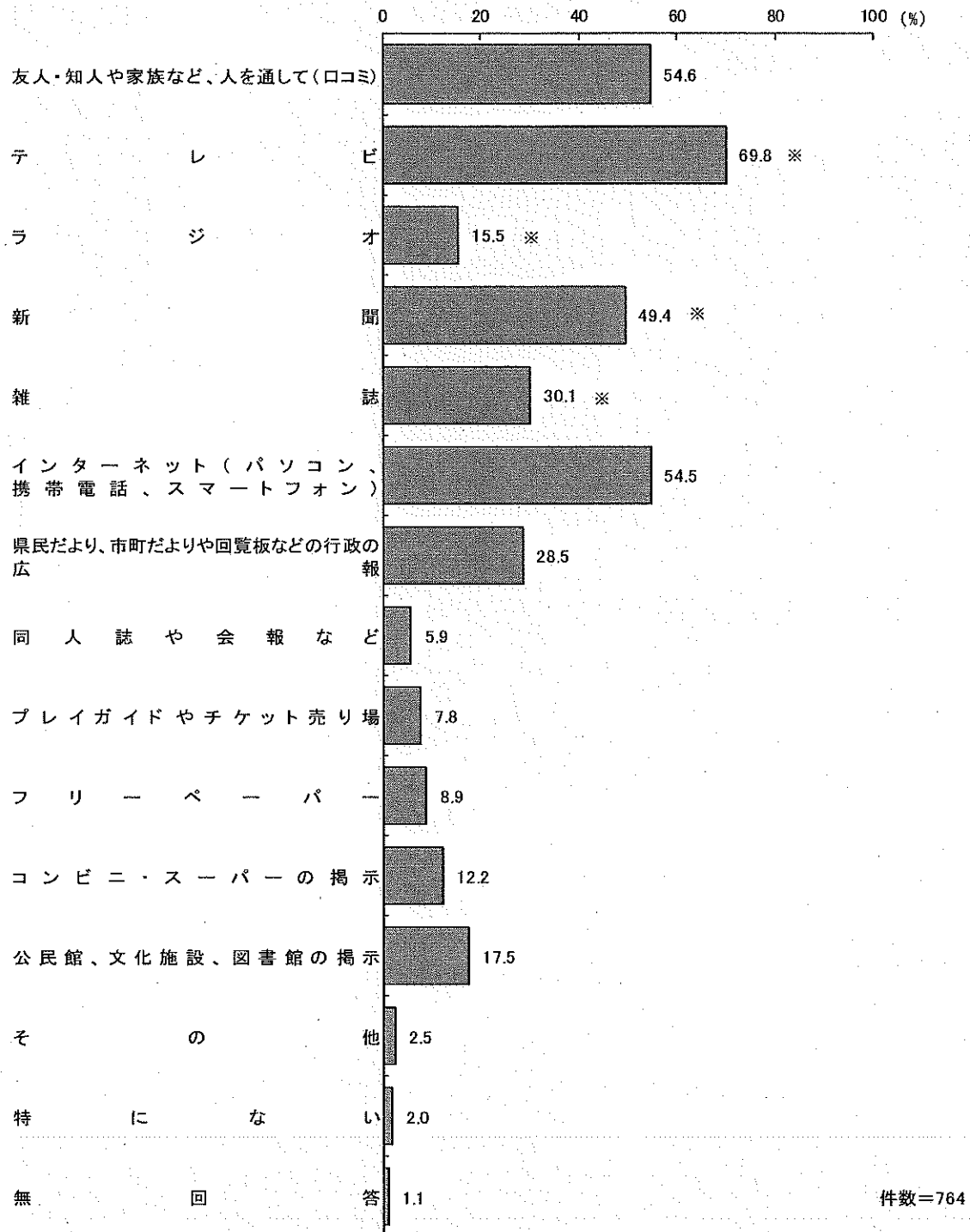
直接鑑賞種目と同様に、ジャンルについても昨年1年間の直接鑑賞実績と今後直接鑑賞したい意向を比較すると、今後の直接鑑賞意向が「伝統芸能」では24.2ポイント、「音楽」では20.5ポイント、「演劇」では19.4ポイント上回っている。

【図1-8-vii 直接鑑賞実績ジャンルと直接鑑賞意向ジャンルの比較】



1-9 鑑賞情報の入手媒体

問9 あなたは、直接鑑賞する機会の情報を入手するために、現在どのようなもの(媒体・手段)を利用していますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図1-9-i 鑑賞情報の入手媒体】

【項目】	＜調査年度＞					(%)
	H18	H21	H24	H26	H27	
友人・知人や家族など、 人を通して(口コミ)	45.7	47.1	51.1	53.8	54.6	
テレビ(※)	59.2	57.6	59.4	57.6		69.8
ラジオ(※)						15.5
新聞(※)	63.6	59.2	51.2	54.0		49.4
雑誌(※)						30.1
インターネット	25.2	29.0	36.7	31.2	54.5	
行政の広報	35.6	32.6	27.0	35.2	28.5	
同人誌や会報など	3.1	1.6	4.2	2.2	5.9	
プレイガイドやチケット売り場	6.2	4.2	3.8	4.9	7.8	
フリーペーパー	-	-	-	-	8.9	
コンビニ・スーパーの掲示	7.1	7.3	7.6	7.7	12.2	
公民館、文化施設、図書館の掲示	13.3	12.4	12.1	16.5	17.5	
その他	1.9	0.8	2.3	1.9	2.5	
特になし	6.5	5.9	5.2	5.6	2.0	
無回答	1.2	3.5	3.2	3.2	1.1	

※平成27年の「テレビ」「ラジオ」は平成18年度～平成26年度までの「テレビ・ラジオ」を2項目に分けて集計。

※平成27年の「新聞」「雑誌」は平成18年度～平成26年度までの「新聞・雑誌」を2項目に分けて集計。

＜全体＞

文化・芸術鑑賞についての情報を入手するために、現在利用している媒体手段は「テレビ」が69.8%と最も高く、次いで、「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が54.6%、インターネット(パソコン、携帯電話、スマートフォン)が54.5%と続いている。「新聞」は49.4%、「雑誌」は30.1%であった。

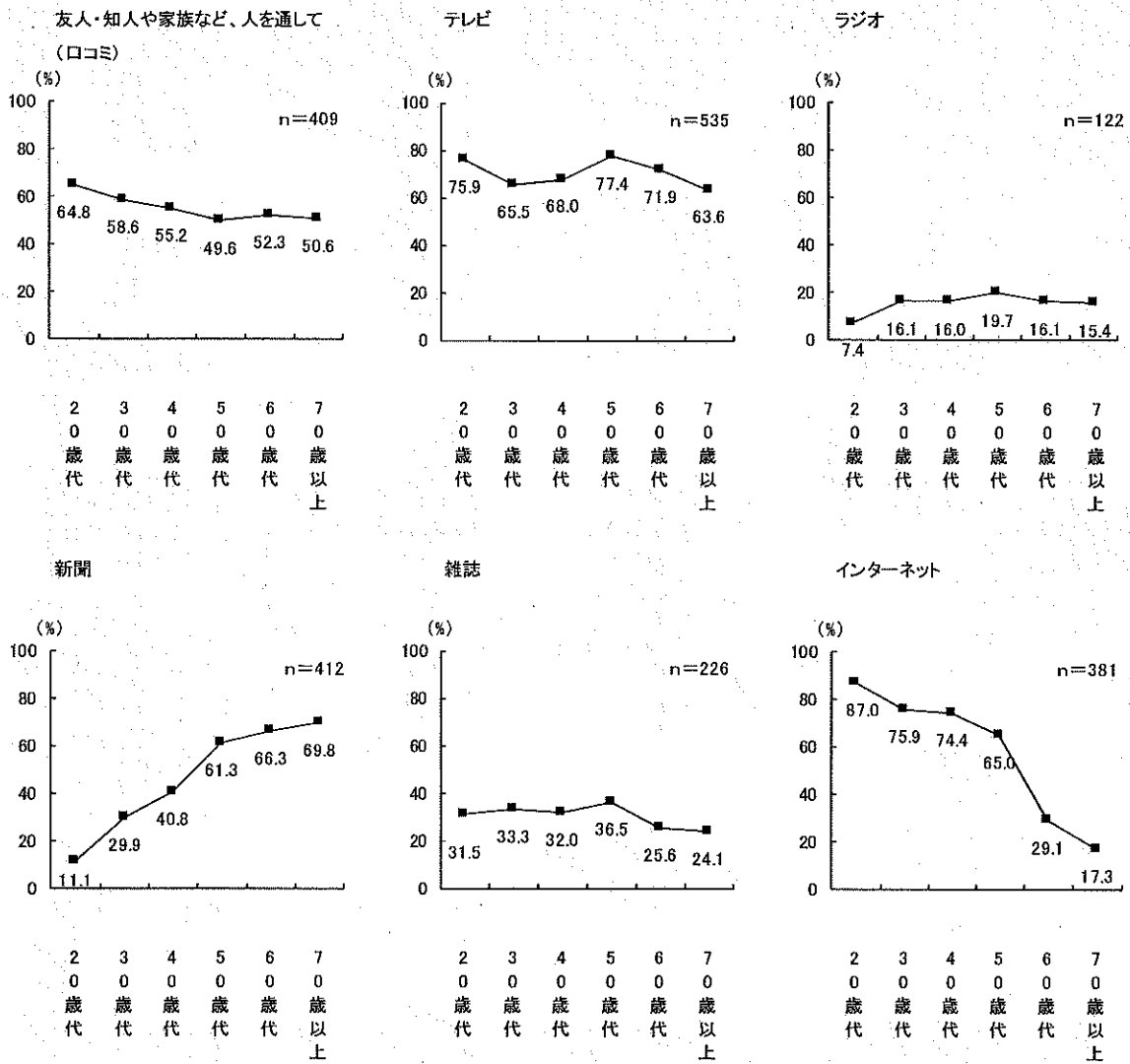
過去の調査と比較すると、「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」は年々増加傾向にある。「インターネット(パソコン、携帯電話、スマートフォン)」も54.5%と前回の31.2%から大きく割合を伸ばしている。

<年代別>

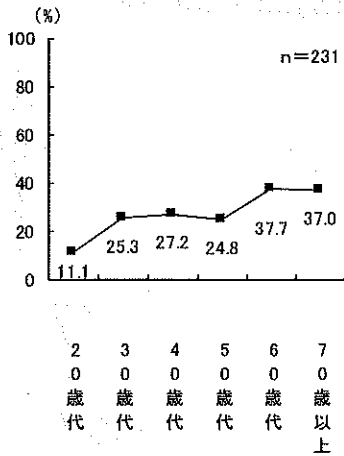
「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）」は、20歳代、30歳代、40歳代で概ね7割を超えて第1位となっており、年代が上がるにつれて割合は下がる傾向にある。「テレビ」は50歳代、60歳代で、「新聞」は70歳以上でそれぞれ第1位となっている。「テレビ」は全ての年代で6割を超え、「友人・知人や家族など、人を通して（口コミ）」も同様に4割を超えているが、20歳代では6割強、30歳代では6割弱と、比較的高くなっている。

「県民だより、市町だよりや回覧板などの行政の広報」は60歳以上で4割弱と比較的高く、概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。

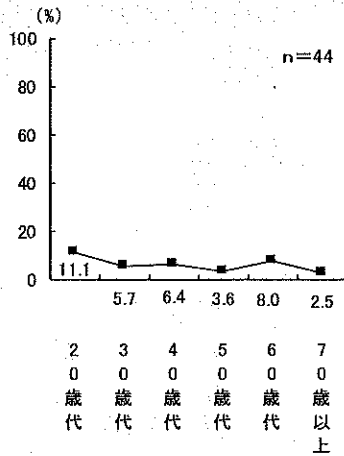
【図1-9-ii 年代別 鑑賞情報の入手媒体】



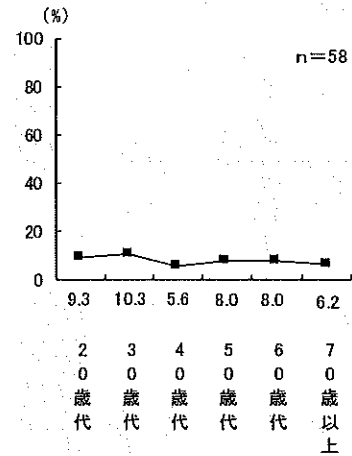
県民だより、市町だよりや回覧板などの
行政の広報



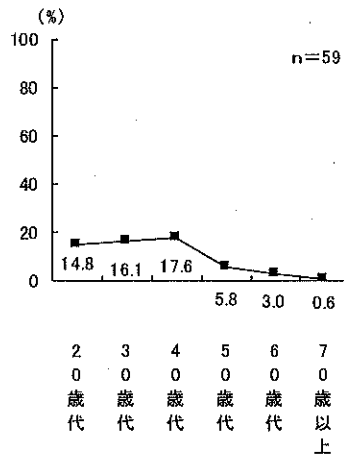
同人誌や会報など



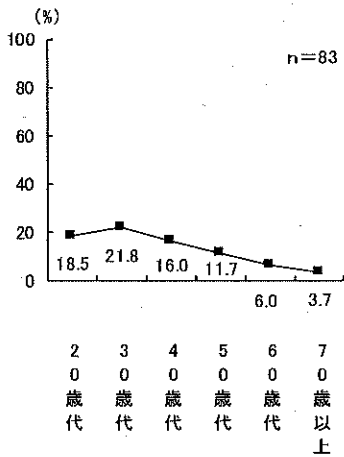
プレイガイドやチケット売り場



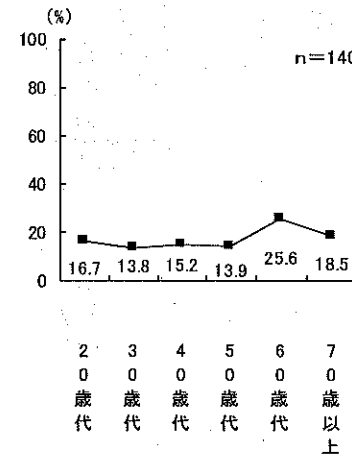
フリーペーパー



コンビニ・スーパーの掲示



公民館、文化施設、図書館の掲示

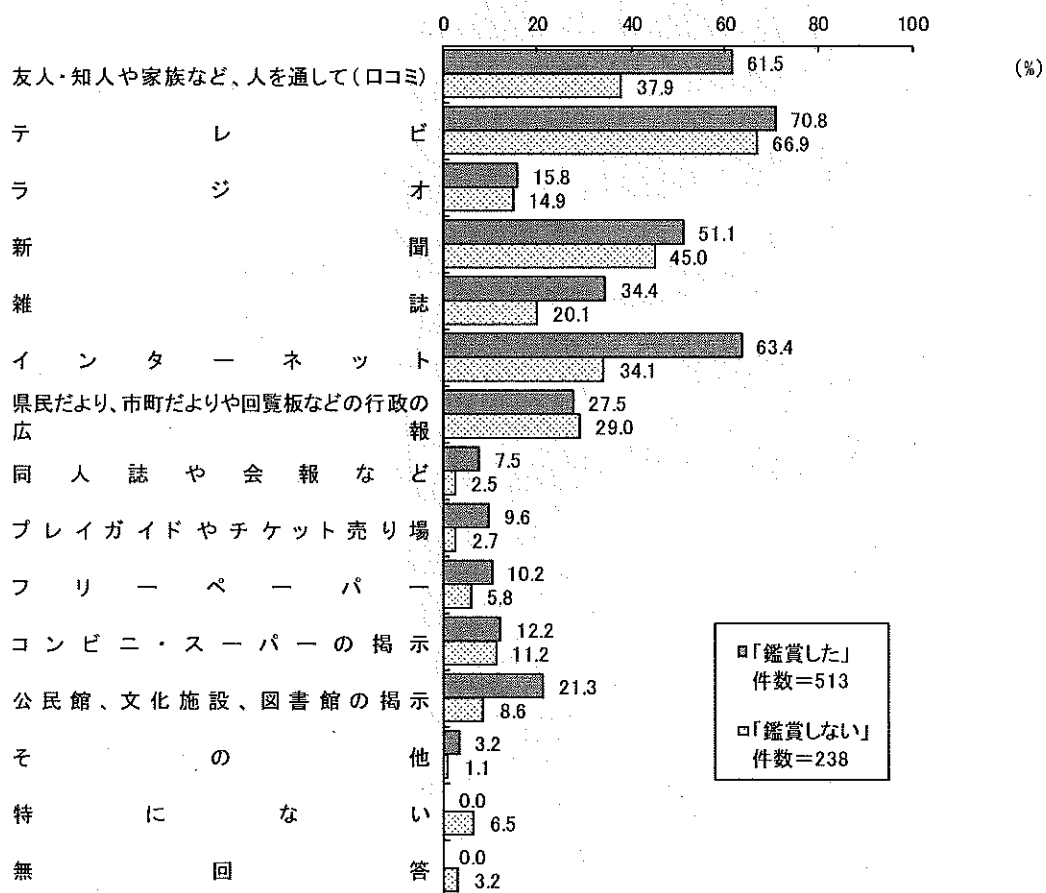


<「直接鑑賞機会の有無」別>

昨年1年間に文化・芸術を直接鑑賞する機会があった人は、直接鑑賞しない人に比べて、大
 体において情報媒体の利用率が高い。直接鑑賞する機会があった人の情報媒体の第1位は「テ
 レビ」が70.8%、次いで「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）」の
 63.4%、「友人・知人や家族など、人を通して（ロコミ）」の61.5%の順となった。

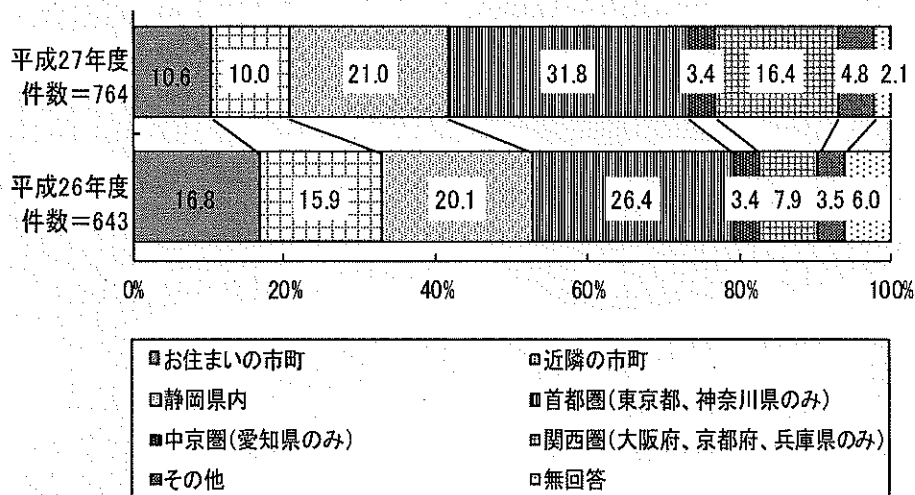
直接鑑賞機会の「ある」人と「ない」人で特に差が大きかったのは、「インターネット（パ
 ソコン、携帯電話、スマートフォン）」（「ある」63.4%、「ない」34.1%）の29.3ポイントと、
 「ロコミ」（「ある」61.5%、「ない」37.9%）の23.6ポイントであった。

【図1-9-iii 「直接鑑賞機会の有無」別 文化・芸術鑑賞についての情報入手媒体】



1-10 鑑賞のために出かけたいと思う地域の範囲

問10 あなたのお住まいの地域から、芸術鑑賞のためにお出かけになりたいと思う最も遠い地域の範囲はどのあたりまでですか。次の中から、当てはまるもの1つだけに○をつけてください。



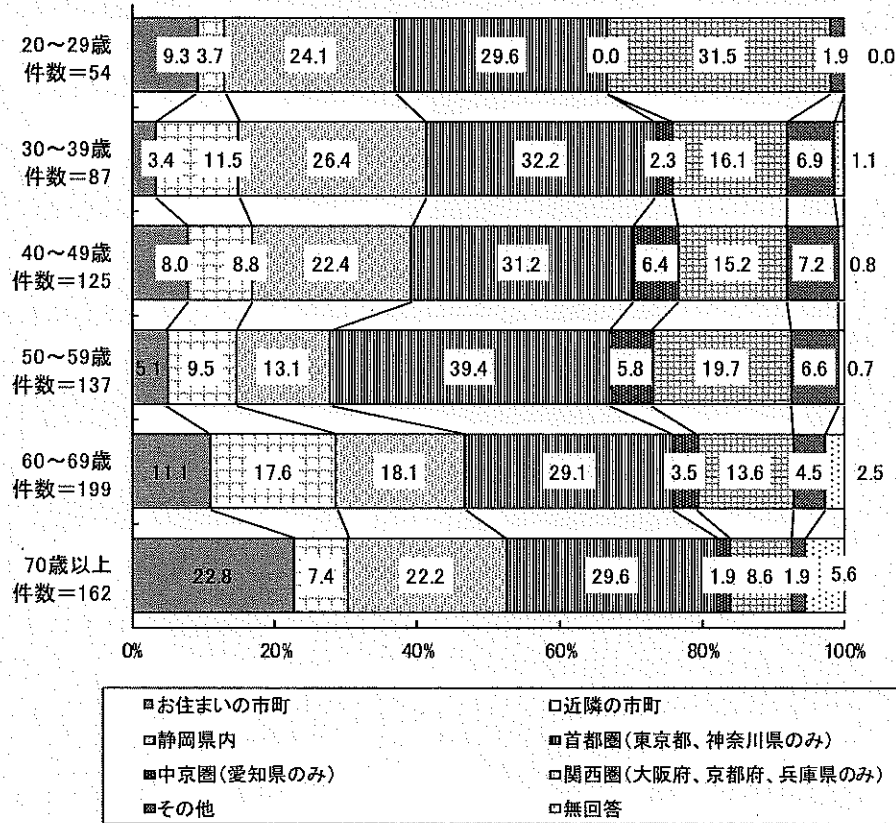
<全体>

芸術鑑賞のために出かけたいと思う最も遠い地域の範囲については、「首都圏（東京都、神奈川県のみ）」が 31.8%で最も高く、次いで「静岡県内」が 21.0%、「関西圏（大阪府、京都府、兵庫県のみ）」が 16.4%と続いた。

<年代別>

20歳代では「関西圏（大阪府、京都府、兵庫県のみ）」が最も高く、30歳代から70歳以上では「首都圏（東京都、神奈川県のみ）」が最も高い。これに次いで、20歳代では「首都圏（東京都、神奈川県のみ）」、30歳代、40歳代、60歳代では「静岡県内」、50歳代では「関西圏（大阪府、京都府、兵庫県のみ）」、70歳以上では「お住まいの市町」がそれぞれ続いている。

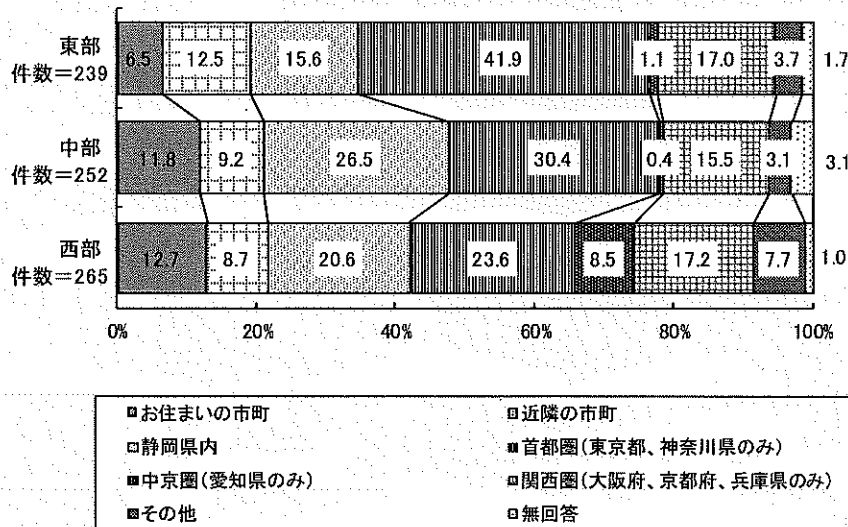
【図1-10-i 年代別 鑑賞のために出かけたと思う地域の範囲】



<地区別>

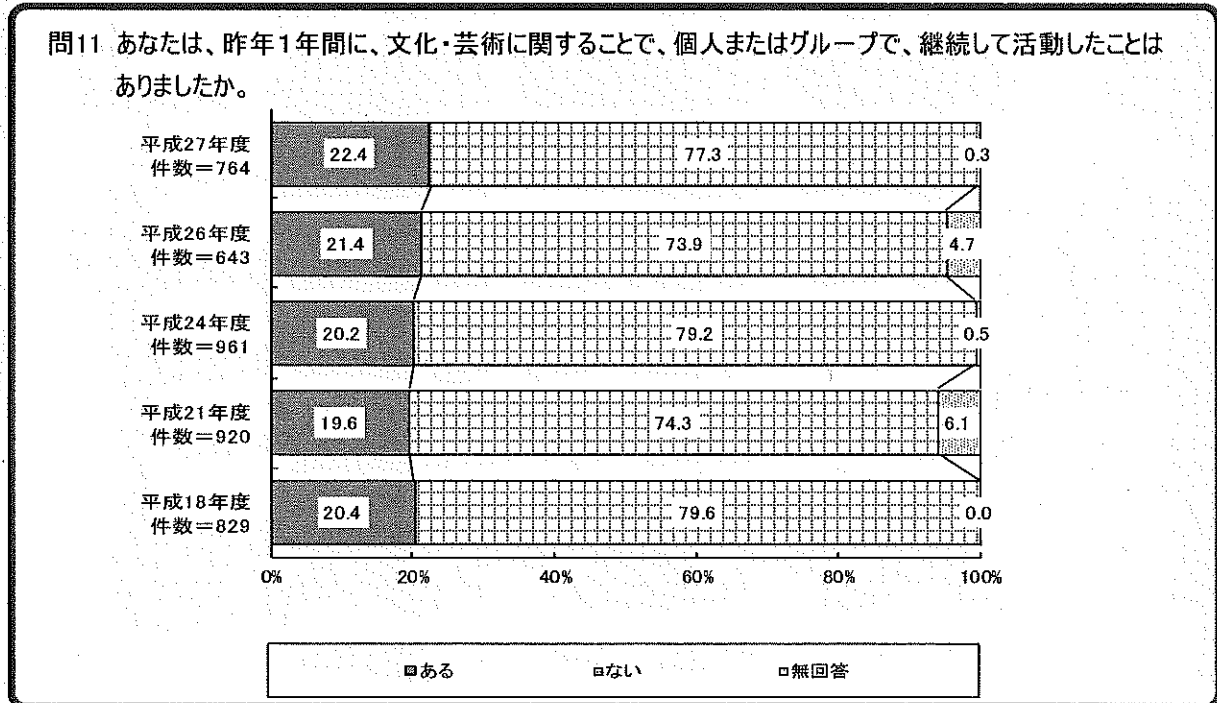
全ての地区で「首都圏（東京都、神奈川県のみ）」が最も高く、これに次いで、中部地区と西部地区は「静岡県内」、東部地区は「関西圏（大阪府、京都府、兵庫県のみ）」となっている。東部地区は「静岡県内」が2割を下回り、他の2地区に比べ低い割合となっている。

【図1-10-ii 地区別 鑑賞のために出かけたと思う地域の範囲】



2 文化・芸術の活動について

2-1 活動機会の有無



<全体>

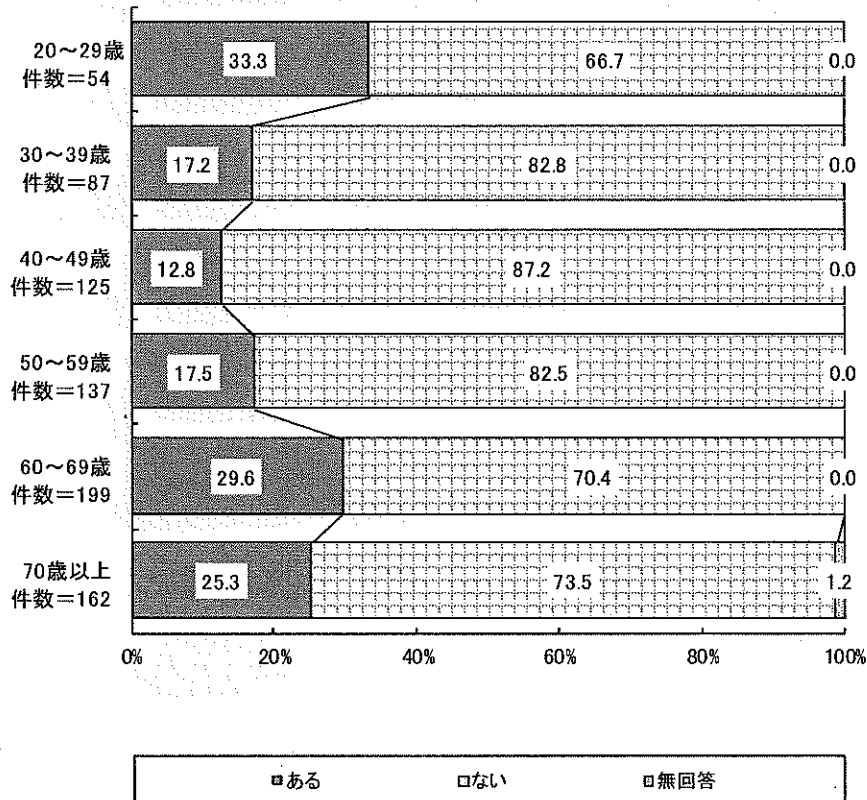
昨年1年間に文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人は22.4%で、ほぼ5人に1人となっている。一方、したことが「ない」と「無回答」の合計は77.6%となり、5人に4人の割合となっている。

過去の調査と比較すると、文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人は平成21年度以降、微増で推移している。

<年代別>

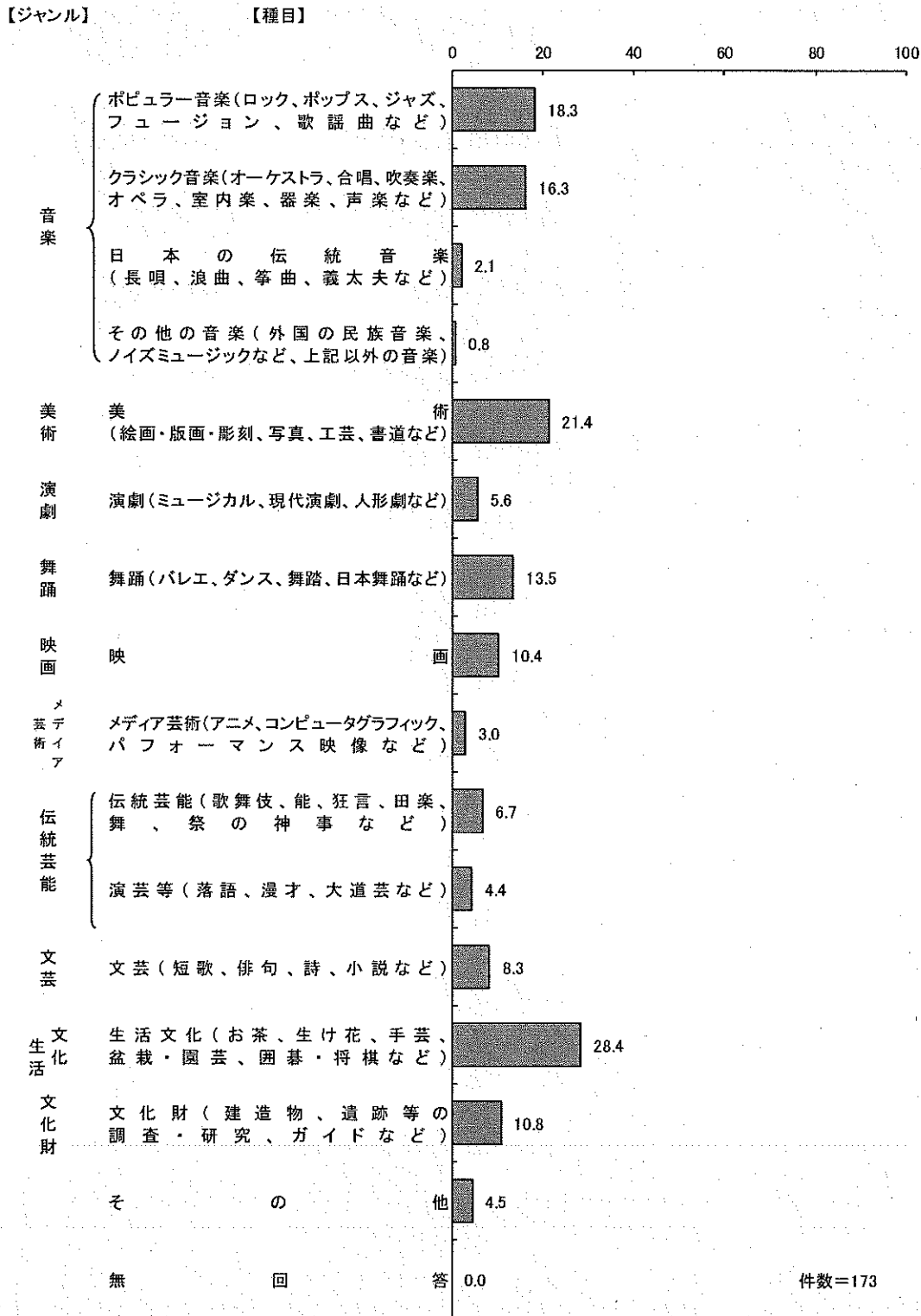
文化・芸術に関する活動をしたことが「ある」人を年代別で見ると、第1位は20歳代で33.3%と3割を超え、60歳代が29.6%、70歳以上が25.3%で続いている。40歳代は最も低く、12.8%であった。

【図2-1-i 年代別 1年間の活動機会の有無】



2-2 活動内容

問12 問11で「1. ある」と回答された方にお聞きします。継続して活動したことは次のどれですか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-2-i 活動した種目】

		＜調査年度＞					(%)
【ジャンル】	【種目】	H18	H21	H24	H26	H27	
音楽	ポピュラー	20.1	8.3	14.9	15.2	18.3	
	クラシック	14.2	12.8	23.1	16.2	16.3	
	伝統音楽	6.5	3.3	4.4	3.6	2.1	
	その他音楽	1.8	2.8	1.8	1.9	0.8	
美術	美術	24.9	25.0	26.1	27.6	21.4	
演劇	演劇	6.5	5.6	4.1	3.2	5.6	
舞踊	舞踊	14.2	19.4	13.9	15.2	13.5	
映画	映画	7.7	4.4	11.4	16.4	10.4	
メディア芸術	メディア芸術	1.2	2.2	4.0	4.0	3.0	
伝統芸能	伝統芸能	2.4	3.3	3.5	7.3	6.7	
	演芸等	5.3	1.7	2.0	2.4	4.4	
文芸	文芸	11.2	6.1	4.7	8.8	8.3	
生活文化	生活文化	35.5	31.7	29.7	36.1	28.4	
文化財	文化財	5.9	6.7	8.1	16.5	10.8	
その他		4.7	10.6	6.3	7.1	4.5	
無回答		0.0	2.2	2.6	1.3	0.0	

＜全体＞

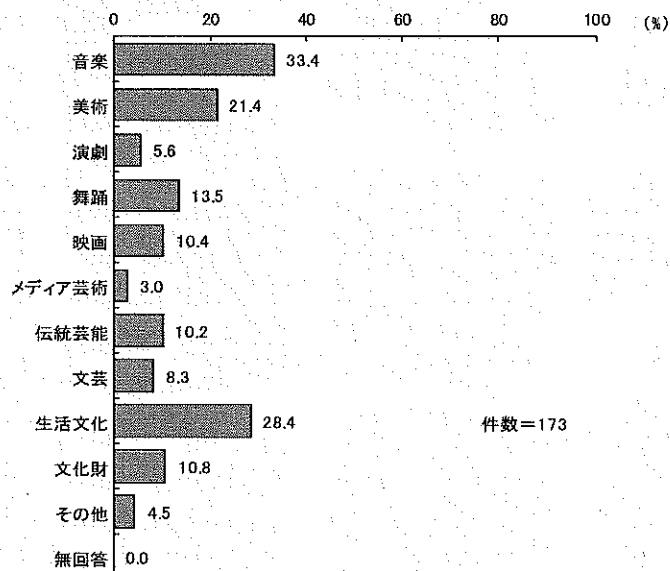
昨年1年間に文化・芸術に関する事で、個人またはグループで、継続して学習や活動をした機会が「ある」と回答した人（173人）の活動内容は、第1位が「生活文化（お茶、生け花、手芸、盆栽・園芸、囲碁・将棋など）」で28.4%、次いで「美術（絵画・版画・彫刻、写真、工芸、書道など）」が21.4%、「ポピュラー音楽（ロック、ポップス、ジャズ、フュージョン、歌謡曲など）」が18.3%となっている。

過去の調査と比較すると、「美術」は平成18年度以降増加が続いていたが、平成27年度は21.4%で、平成26年度の27.6%より6.2ポイント減少した。一方、「ポピュラー音楽」「演劇」「演芸等」はわずかだが平成26年度を上回っている。

<ジャンル別>

ジャンル別にみると、第1位は「音楽」の33.4%、続いて「生活文化」の28.4%、「美術」の21.4%の順となっている。

【図2-2-ii 活動したジャンル】



<性・年代別 活動内容の上位種目>

活動をした種目を性・年代別で見ると、第1位は、男性の20歳代では「メディア芸術」、30歳代では「伝統芸能」、40歳代では「美術」、50歳代と70歳以上では「生活文化」、60歳代では「美術」「文化財」が同率となっている。女性の20歳代は「舞踊」、40歳代、50歳代は「ポピュラー音楽」、30歳代、60歳代、70歳以上は他の項目と同率の年代もあるが、いずれの年代にも「生活文化」が挙げられている。

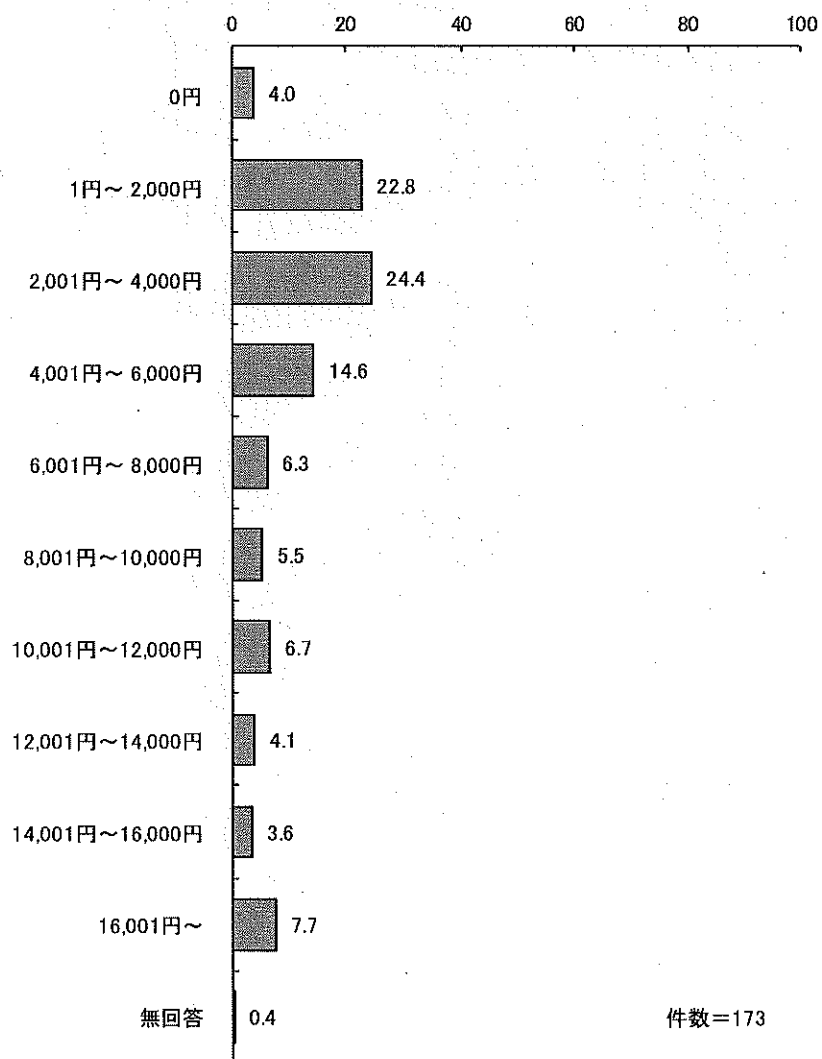
【図2-2-iii 性・年代別 活動内容の上位種目】

(%)

性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20~29歳	4	メディア芸術 75.0	生活文化 25.0			
	30~39歳	6	伝統芸能 50.0	ポピュラー音楽 33.3	クラシック音楽/演劇/舞踊/演芸等/生活文化 16.7		
	40~49歳	4	美術 75.0	文化財/ポピュラー音楽 25.0			
	50~59歳	7	生活文化 42.9	文化財/映画/舞踊/ポピュラー音楽 14.3			
	60~69歳	25	文化財/美術 36.0		映画 28.0	ポピュラー音楽 24.0	生活文化/演芸等 16.0
	70歳以上	20	生活文化 40.0	文化財/美術 25.0		文芸 15.0	ポピュラー音楽/演劇/舞踊/その他 10.0
女性	20~29歳	14	舞踊 35.7	生活文化/美術/クラシック音楽 21.4			文芸/映画 14.3
	30~39歳	9	生活文化/クラシック音楽 33.3		ポピュラー音楽 22.2	美術/演劇/舞踊/その他 11.1	
	40~49歳	12	ポピュラー音楽 25.0	生活文化 16.7	クラシック音楽/日本の伝統音楽/美術/舞踊/映画/文芸/その他 8.3		
	50~59歳	17	クラシック音楽/ポピュラー音楽 35.3		生活文化 29.4	美術 23.5	映画 11.8
	60~69歳	34	生活文化 35.3	美術 23.5	映画/舞踊 20.6		クラシック音楽/ポピュラー音楽 14.7
	70歳以上	21	生活文化 38.1	美術 28.6	文芸/クラシック音楽/ポピュラー音楽 19.0		

2-3 活動への月間支出額

問13 問11で「1. ある」と回答された方にお聞きします。あなたは、昨年1年間で文化・芸術に関すること
で、個人またはグループで、継続して活動するために、1か月平均いくら位お金を支出していますか。
次の中から、最も近い金額に○をつけてください。



【図2-3-i 活動への月間平均支出額】

【項目】	＜調査年度＞				
	H18	H21	H24	H26	H27
0円	3.6	4.4	0.9	0.7	4.0
1円～2,000円	18.9	18.3	17.4	20.4	22.8
2,001円～4,000円	20.1	23.3	24.4	21.9	24.4
4,001円～6,000円	21.9	12.8	15.8	13.9	14.6
6,001円～8,000円	11.2	7.8	10.2	10.2	6.3
8,001円～10,000円	2.4	10.6	8.0	11.7	5.5
10,001円～12,000円	6.5	8.9	11.6	5.8	6.7
12,001円～14,000円	2.4	2.2	3.6	2.2	4.1
14,001円～16,000円	3.6	3.3	2.3	5.8	3.6
16,001円～	8.3	6.7	4.3	7.3	7.7
無回答	1.2	1.7	1.7	0.0	0.4

＜全体＞

昨年1年間に文化・芸術に関する事で、個人またはグループで、継続して学習したり、活動した機会が「ある」と回答した人の月間支出額は、「2,001円～4,000円」が24.4%で最も多く、次いで「1円～2,000円」22.8%、「4,001円～6,000円」14.6%の順となっている。

「16,001円以上」との回答は7.7%であった。

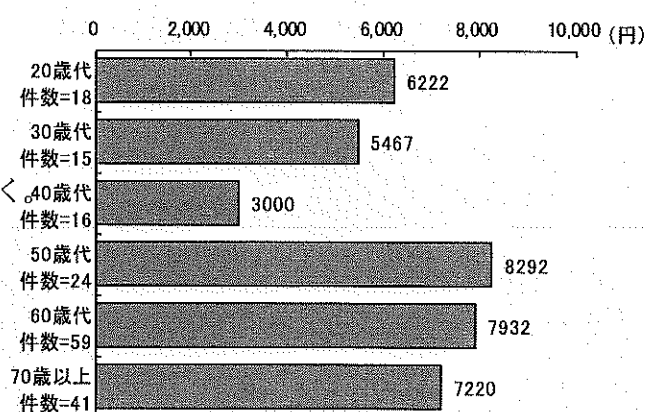
過去の調査と比較すると、平成24年度と平成26年度では1.0%未満の「0円」が平成27年度には4.0%となった。また、「1円～2,000円」は平成21年度以降増加傾向で推移している。

＜年代別＞
額】

1人当たりの文化・芸術活動への月間平均支出額は右のグラフの通りとなった（算出方法は下記参照）。

年代別で見ると、50歳代が最も多い8,292円で、以下60歳代7,932円、70歳以上7,220円と続く。また、40歳代が最も低い3,000円となっている。

【図2-3-ii 年代別 活動への月間平均支出額】



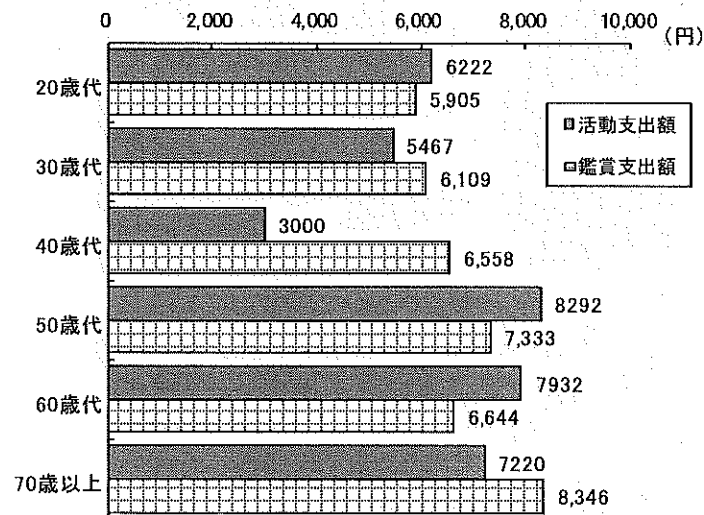
計算方法

- ①本設問の選択肢は、「1円～2,000円」といったように2,000円の幅があるため、その中央値を単価とする。(例:1,000円、3,000円)
- ②年代ごとに各単価の回答者数を出し、単価に乗ずる。これを合計して、各年代の合計支出額を算出する。
- ③上記の合計支出額を、「無回答」を除く各年代の回答者数で除したものを、1人当たりの平均支出額とする。

<鑑賞への月間平均支出額との比較>

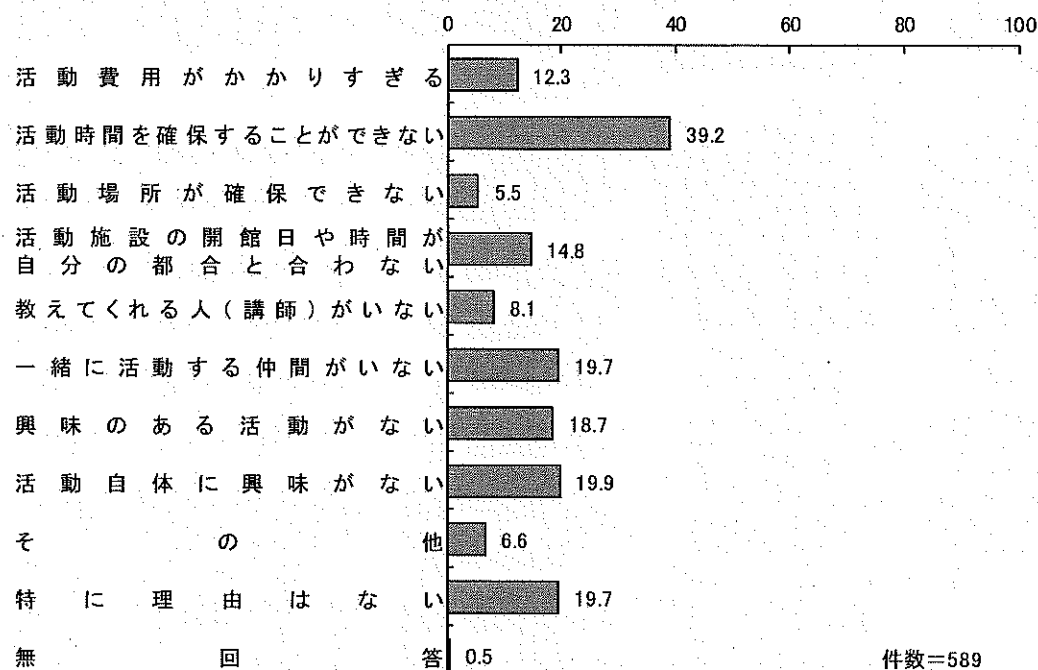
1-6の文化・芸術鑑賞への月間平均支出額と文化・芸術活動への月間平均支出額を年代別で比較をすると、20歳代、50歳代、60歳代は活動平均支出額が鑑賞平均支出額を上回っている。また、活動支出額は50歳代、鑑賞支出額は70歳以上が最も多い。一方、活動支出額が最も少ないのは40歳代、鑑賞支出額が最も少ないのは20歳代となっている。

【図2-3-iii 年代別 鑑賞への平均支出額と活動への平均支出額】



2-4 活動しなかった理由

問14 問11で「2. ない」と回答された方にお聞きます。あなたが活動していないのは、どのような理由からですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-4-1 活動しなかった理由】

【項目】	＜調査年度＞		
	H24	H26	H27
活動費用がかかりすぎる	14.3	14.3	12.3
活動時間を確保することができない	54.8	45.9	39.2
活動場所が確保できない	2.8	5.1	5.5
活動施設の開館日や時間が自分の都合と合わない	3.5	1.9	14.8
教えてくれる人(講師)がいない	5.9	5.0	8.1
一緒に活動する仲間がいない	20.0	16.1	19.7
興味のある活動がない	20.1	19.5	18.7
活動自体に興味がない	11.7	14.5	19.9
その他	4.2	5.7	6.6
特に理由はない	12.9	14.6	19.7
無回答	0.7	1.7	0.5

<全体>

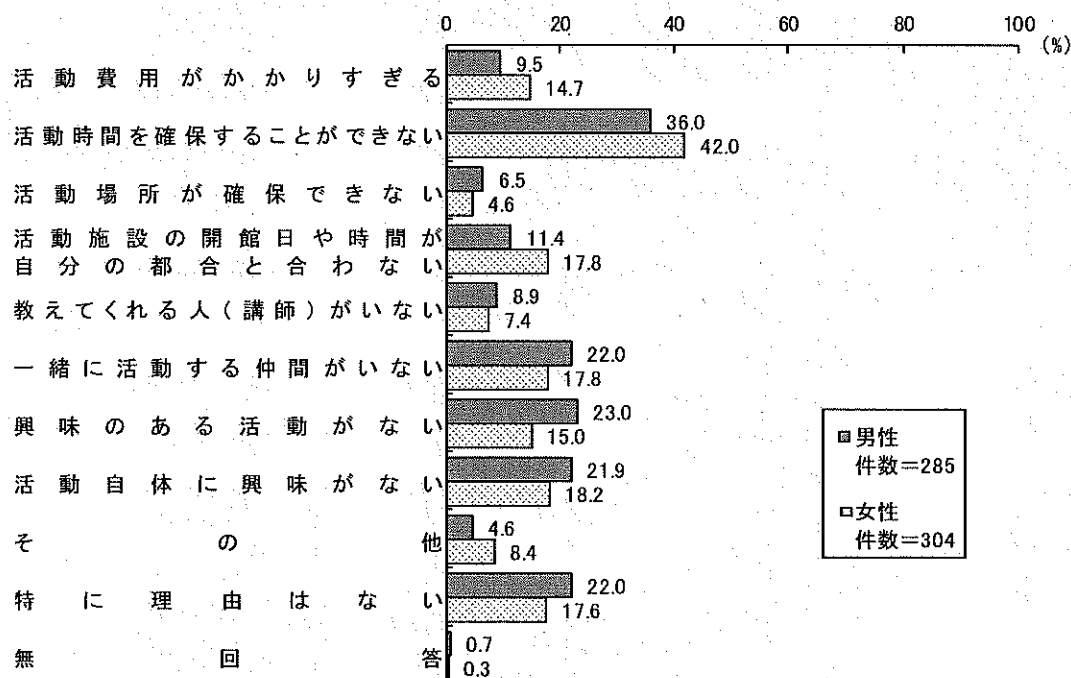
昨年1年間に文化・芸術に関する活動をしなかった理由、または、活動の障害となることこの第1位は「活動時間を確保することができない」が39.2%と最も高く、次いで「活動自体に興味がない」19.9%、「一緒に活動する仲間がない」19.7%、「興味のある活動がない」18.7%の順となっている。

<性別>

男女ともに「活動時間を確保することができない」が36.0%、42.0%で最も高く、次いで男性では「興味のある活動がない」(23.0%)、「一緒に活動する仲間がない」「特に理由はない」(ともに22.0%)が続いている。女性では「活動自体に興味がない」(18.2%)、「一緒に活動する仲間がない」「活動施設の開館日や時間が自分の都合と合わない」(ともに17.8%)が続いている。

「興味のある活動がない」は、男性が23.0%に対して女性は15.0%と8.0ポイント低く、逆に、「活動費用がかかりすぎる」は女性の14.7%に対して男性は9.5%と5.2ポイント低い

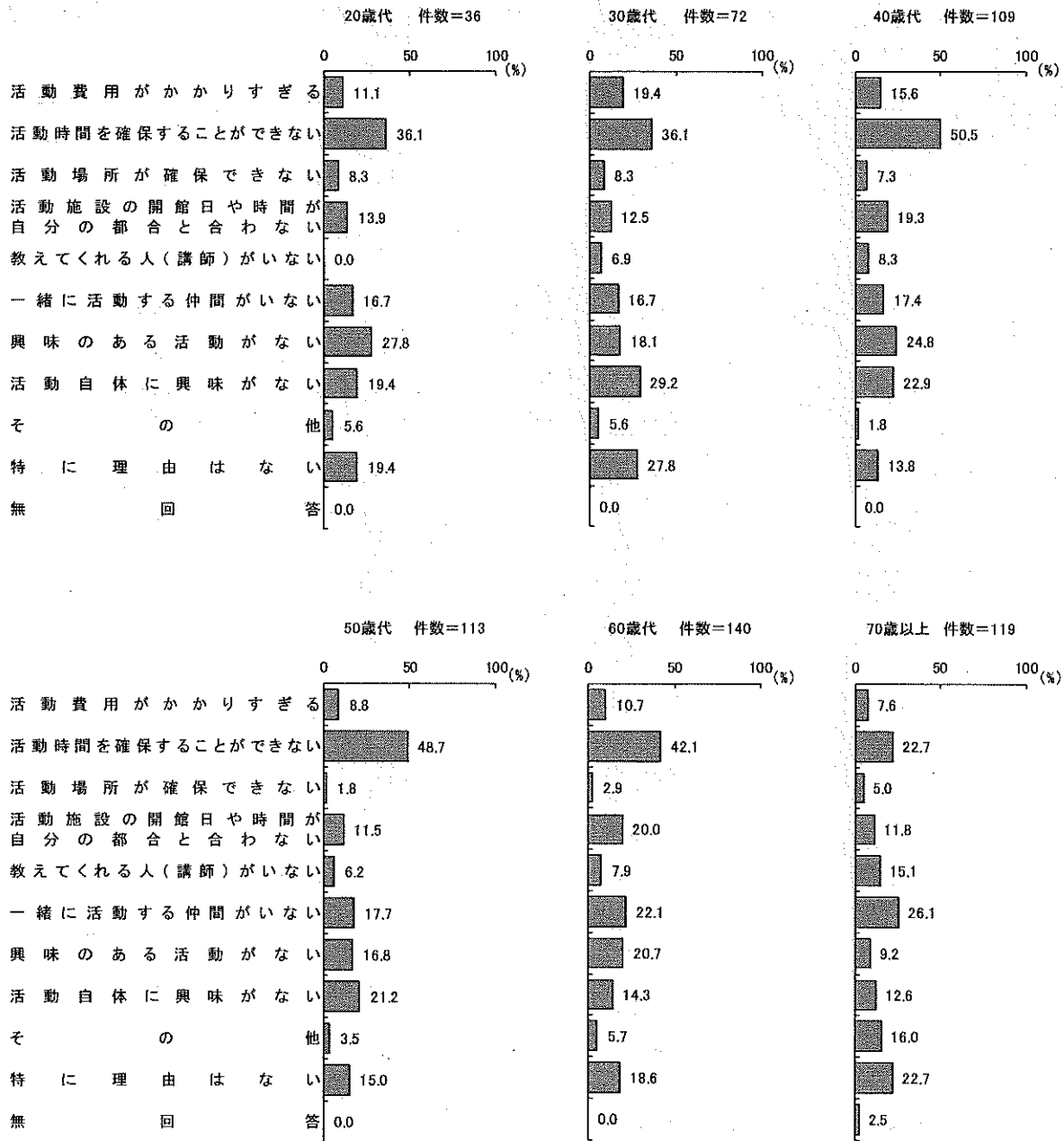
【図2-4-ii 性別 活動しなかった理由】



<年代別>

年代別で見ると、70歳以上を除く年代で「活動時間を確保することができない」が第1位となっており、特に40歳代、50歳代ではほぼ半数を占める。第2位は20歳代、40歳代で「興味のある活動がない」、30歳代、50歳代では「活動自体に興味がない」、60歳代では「一緒に活動する仲間がない」となっている。70歳以上では「一緒に活動する仲間がない」が第1位、「活動時間を確保することができない」「特に理由はない」が同率で第2位となっている。

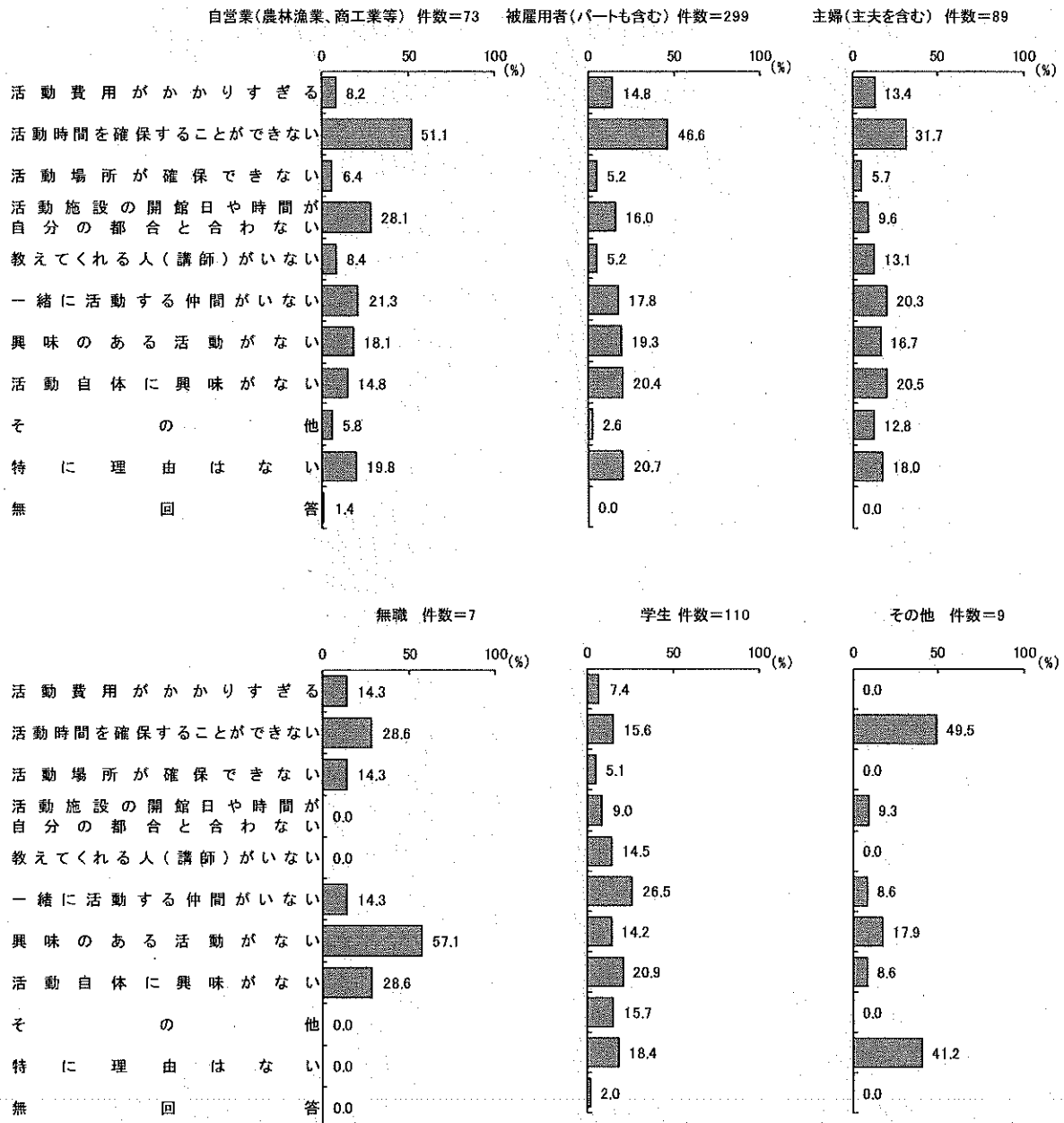
【図2-4-iii 年代別 活動しなかった理由】



<職業別>

自営業（農林漁業、商工業等）、被雇用者（パートも含む）、主婦（主夫を含む）、その他では「活動時間を確保することができない」が、学生では「一緒に活動する仲間がいない」がそれぞれ最も高い。無職では「興味のある活動がない」が6割弱で最も高く、他に比べて高い割合となっている。「活動施設の開館日や時間が自分の都合と合わない」は自営業（農林漁業、商工業等）で3割弱と比較的高くなっている。

【図2-4-iv 職業別 活動しなかった理由】

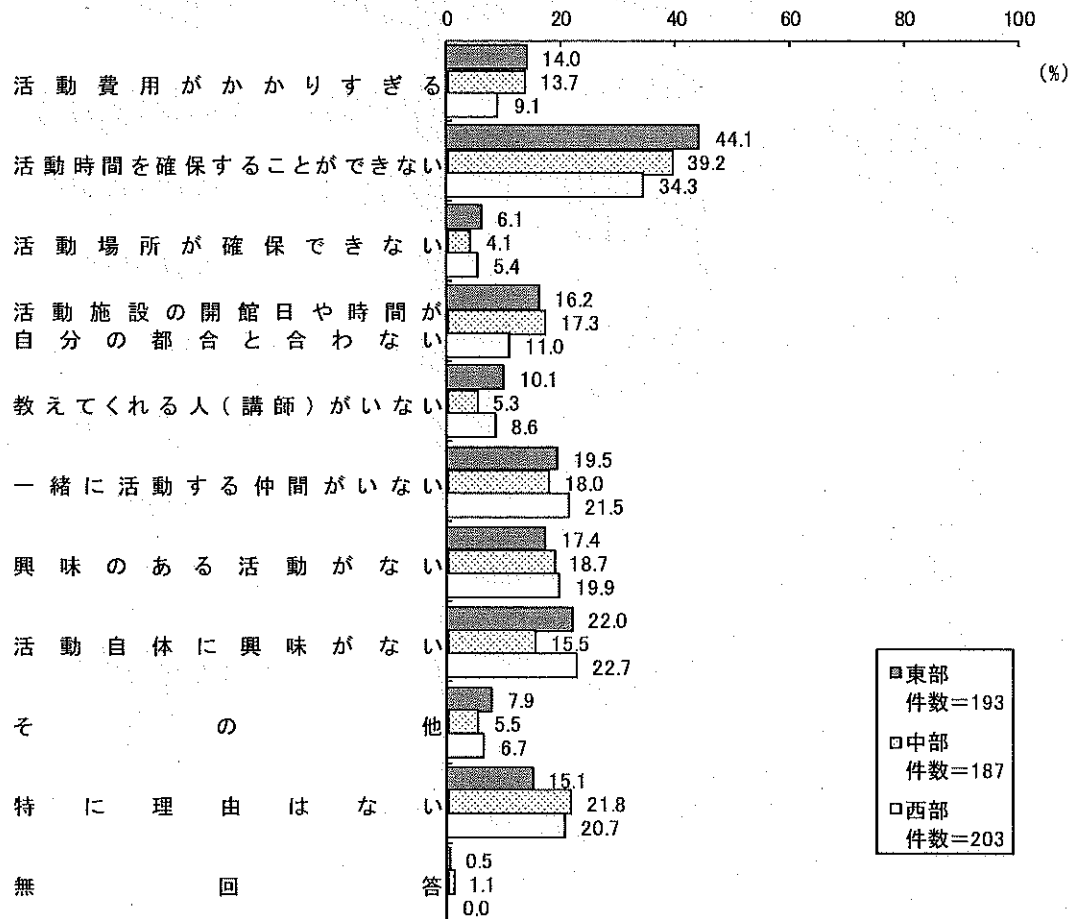


<地区別>

地区別でみると、「活動時間を確保することができない」は、東部地区が44.1%、中部地区が39.2%、西部地区が34.2%となっている。

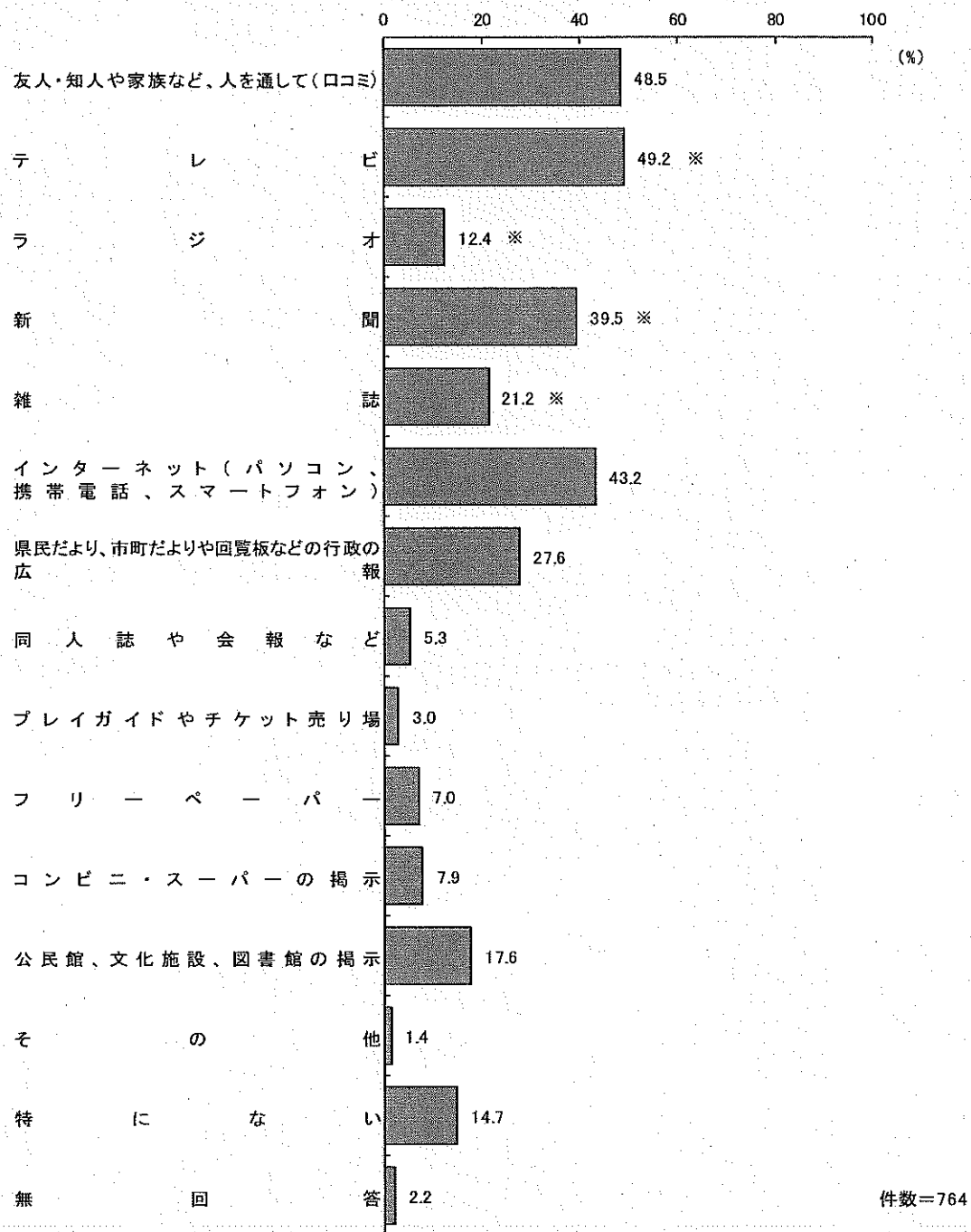
中部地区では、「活動自体に興味がない」が他の2地区に比べて6ポイント以上低くなっている。

【図2-4-v 地区別 文化・芸術活動をしなかった理由】



2-5 活動の情報入手媒体

問15 あなたは、文化・芸術に関する活動についての情報を入手するために、現在どのようなもの(媒体・手段)を利用していますか。次の中から、当てはまるものすべてに○をつけてください。



【図2-5-i 活動の情報入手媒体】

<調査年度>

(%)

【項目】	H18	H21	H24	H26	H27
友人・知人や家族など、人を通して (口コミ)	45.6	46.1	46.7	50.1	48.5
テレビ(※)	45.8	46.1	45.6	51.3	49.2
ラジオ(※)					12.4
新聞(※)	54.6	52.3	47.3	52.4	39.5
雑誌(※)					21.2
インターネット	20.9	24.1	30.7	29.5	43.2
行政の広報	40.8	35.5	33.1	36.9	27.6
同人誌や会報など	3.0	2.2	3.0	2.6	5.3
プレイガイドやチケット売り場	2.3	2.4	2.2	3.0	3.0
フリーペーパー	-	-	-	-	7.0
コンビニ・スーパーの掲示	4.0	4.7	4.6	6.0	7.9
公民館、文化施設、図書館の掲示	13.3	14.0	13.3	16.1	17.6
その他	0.8	0.5	0.7	0.8	1.4
特にない	13.1	12.8	14.3	9.1	14.7
無回答	1.9	3.3	2.2	5.3	2.2

※平成27年の「テレビ」「ラジオ」は平成18年度～平成26年度までの「テレビ・ラジオ」を2項目に分けて集計。

※平成27年の「新聞」「雑誌」は平成18年度～平成26年度までの「新聞・雑誌」を2項目に分けて集計。

<全体>

文化・芸術に関する活動について、利用している媒体手段の第1位は「テレビ」が49.2%となった。次いで「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が48.5%、「インターネット(パソコン、携帯電話、スマートフォン)」が43.2%となっている。

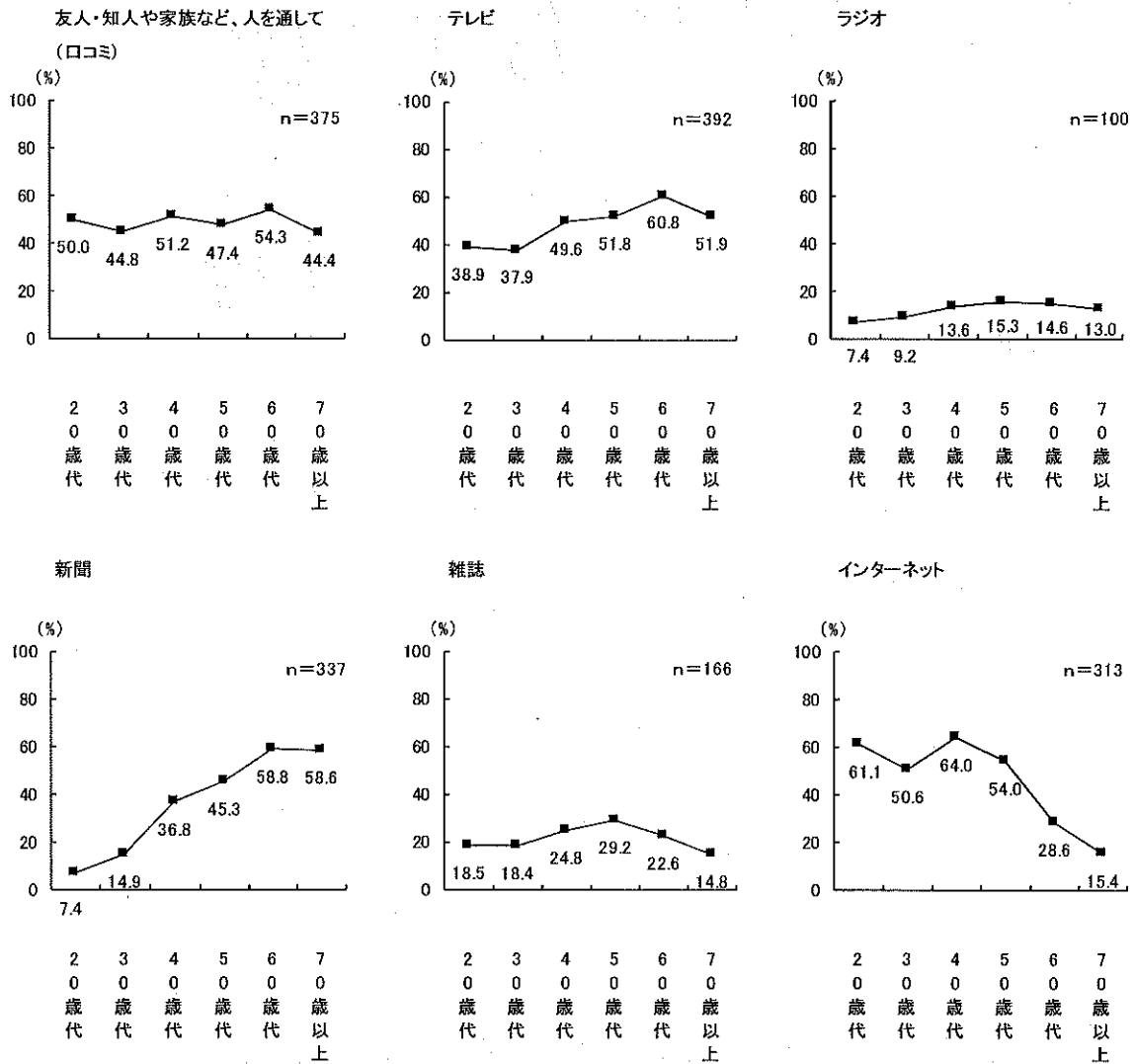
過去の調査と比較すると、「インターネット(パソコン、携帯電話、スマートフォン)」の43.2%は平成26年度の29.4%から大きく増加している。

<年代別>

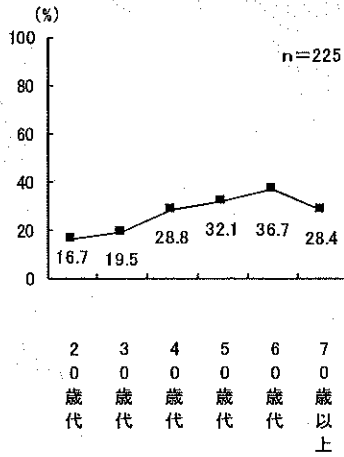
20歳代から50歳代は、いずれも「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）」が半数を超え第1位となっている。60歳代は「テレビ」が60.8%、70歳以上は「新聞」が58.6%でそれぞれ第1位となっている。60歳以上では「テレビ」「新聞」の割合がともに半数を超え、他の年代に比べ高くなっているが、「インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）」は3割を下回り、低い割合となっている。

「行政の広報」は20歳代、30歳代で2割未満、40歳代以上で概ね3割となっている。「友人・知人や家族など、人を通して（口コミ）」はいずれの年代でも4割以上を占め、大きな違いは見られない。

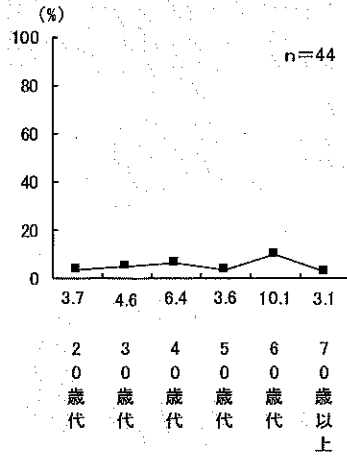
【図2-5-ii 年代別 活動の情報入手媒体】



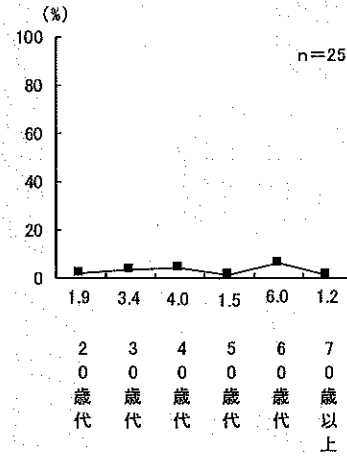
県民だより、市町だよりや回覧板などの
行政の広報



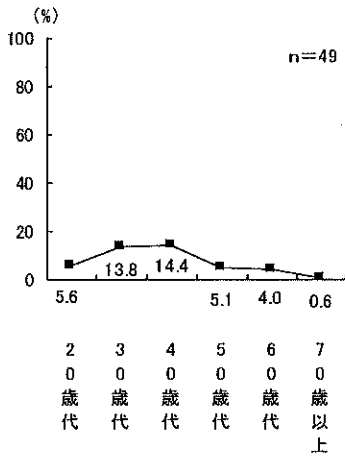
同人誌や会報など



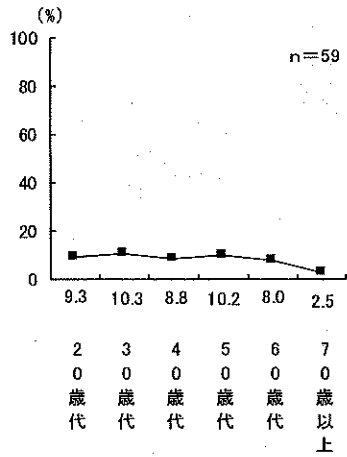
プレイガイドやチケット売り場



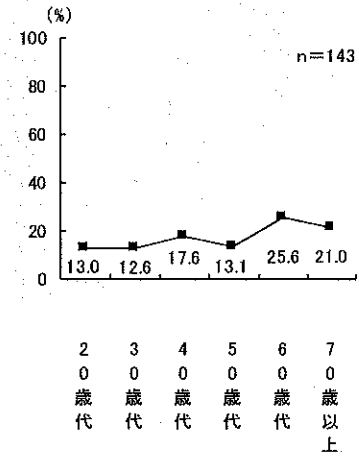
フリーペーパー



コンビニ・スーパーの掲示



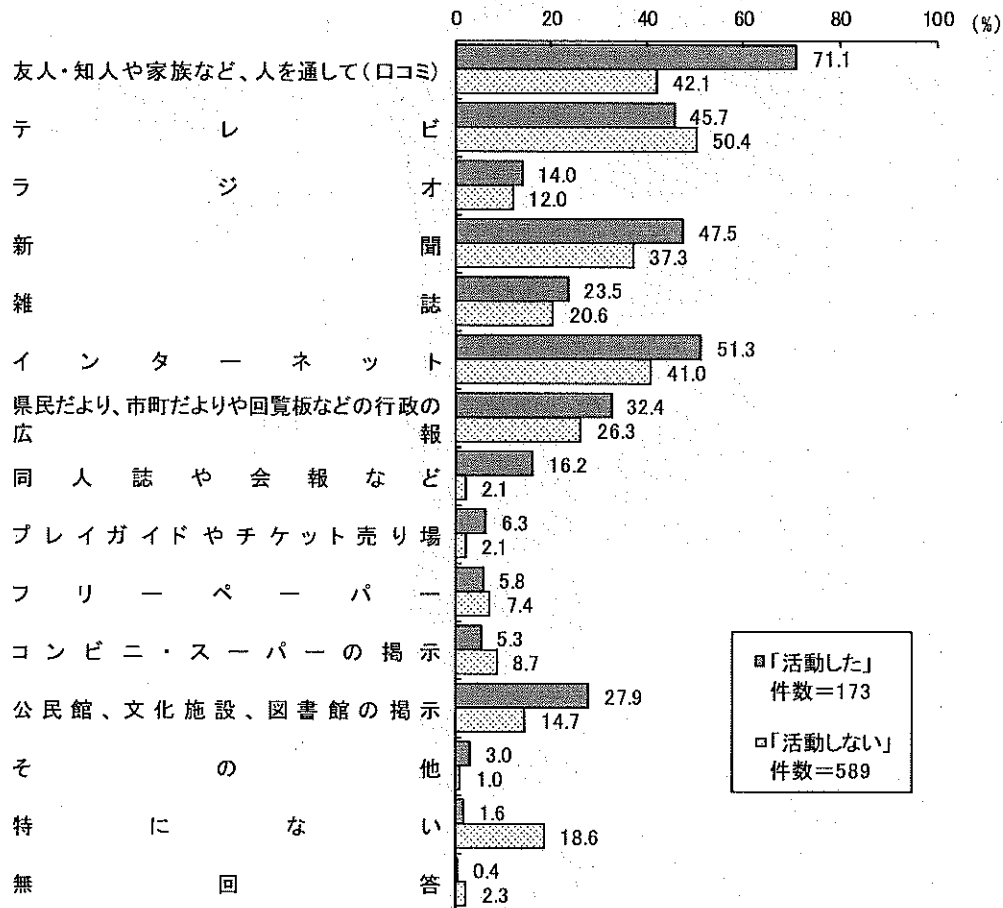
公民館、文化施設、図書館の掲示



<「活動機会の有無」別>

昨年1年間に文化・芸術に関する活動機会が「ある」人は、活動機会が「ない」人に比べて、「テレビ」、「フリーペーパー」、「コンビニ・スーパーの掲示」を除く情報媒体の利用率が高い。活動する機会があった人の第1位は「友人・知人や家族など、人を通して(口コミ)」が71.7%で、次いで「インターネット(パソコン、携帯電話、スマートフォン)」の51.3%、「新聞」の47.5%となっている。

【図2-5-iii 「活動機会の有無」別活動の情報入手媒体】

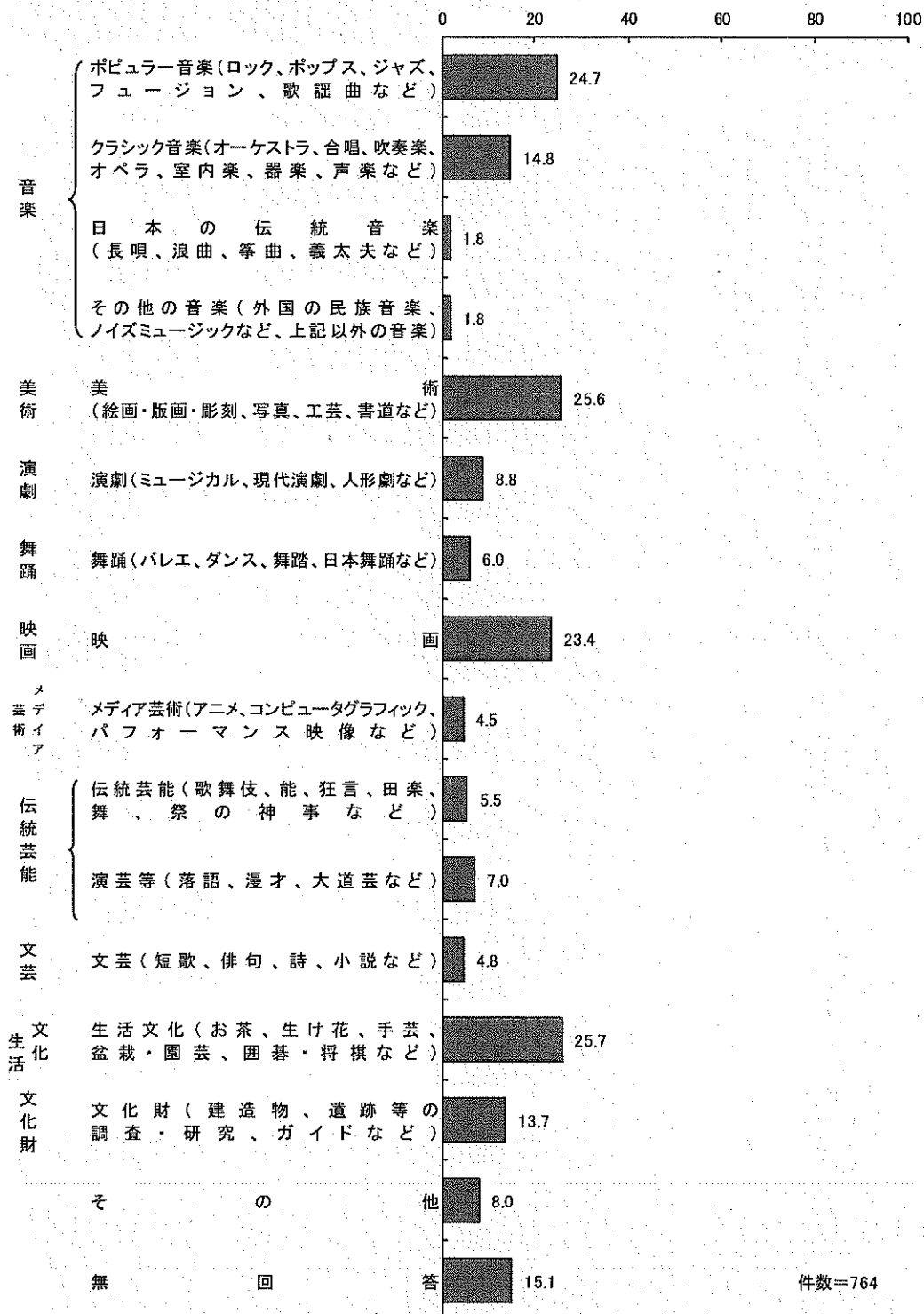


2-6 今後活動したい内容

問16 あなたは、次にあげる文化・芸術に関する活動の中で、今後、継続して活動してみたいものがありますか。活動してみたいものすべてに○をつけてください。

【ジャンル】

【種目】



【図2-6-i 活動したい種目】

<調査年度>

(%)

【ジャンル】	【種目】	H18	H21	H24	H26	H27
音楽	ポピュラー	15.3	15.2	13.3	15.9	24.7
	クラシック	15.1	13.4	14.3	14.4	14.8
	伝統音楽	4.2	3.5	3.2	2.8	1.8
	その他音楽	3.3	1.8	1.1	1.8	1.8
美術	美術	27.0	27.0	27.8	26.5	25.6
演劇	演劇	7.0	5.9	5.7	8.6	8.8
舞踊	舞踊	8.7	9.0	8.0	4.6	6.0
映画	映画	15.4	15.8	15.3	19.2	23.4
メディア芸術	メディア芸術	2.8	2.3	2.6	2.7	4.5
伝統芸能	伝統芸能	3.5	4.1	4.1	6.3	5.5
	演芸等	5.8	7.1	5.9	8.1	7.0
文芸	文芸	5.3	4.1	4.7	6.3	4.8
生活文化	生活文化	29.4	24.8	23.7	25.4	25.7
文化財	文化財	10.1	10.5	13.2	14.4	13.7
その他		1.6	1.8	1.2	1.0	8.0
無回答		1.2	5.9	4.6	7.2	15.1

<全体>

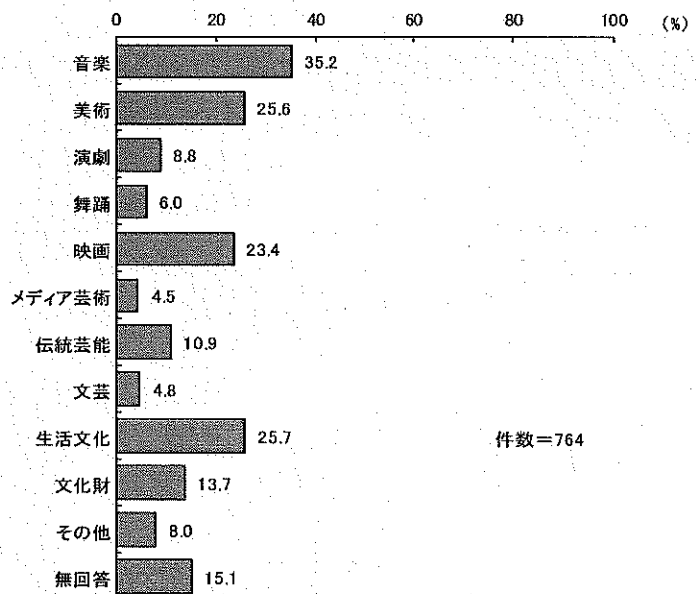
今後、活動したい内容（活動意向）の種目の第1位は「生活文化（お茶、生け花、手芸、盆栽・園芸、囲碁・将棋など）」が25.7%、「美術（絵画・版画・彫刻、写真、工芸、書道など）」が25.6%、「ポピュラー音楽（ロック、ポップス、ジャズ、フュージョン、歌謡曲など）」が24.7%の順となった。

過去の調査と比較すると、「ポピュラー音楽」は平成26年度より大きく増加し、一方、「日本の伝統音楽」は年々減少傾向で推移している。

<ジャンル別>

【図2-6-ii 活動したいジャンル】

ジャンル別でみると、第1位が「音楽」で35.2%、次いで「生活文化」が25.7%、「美術」が25.6%の順となっている。



<性・年代別 活動したい内容の上位種目>

今後、活動したい種目を性・年代別でみると、第1位は、男性の20歳代、30歳代で「ポピュラー音楽」（30歳代では「ポピュラー音楽」と「映画」が同率）、40歳代と60歳代では「美術」（60歳代では「美術」と「映画」が同率）、50歳代では「映画」、70歳以上では「生活文化」となった。女性では40歳代以上で「生活文化」が第1位、「美術」が第2位に挙げられている。20歳代では「美術」、30歳代では「ポピュラー音楽」が第1位となっている。

【図2-6-iii 性・年代別 活動したい内容の上位種目】 (%)

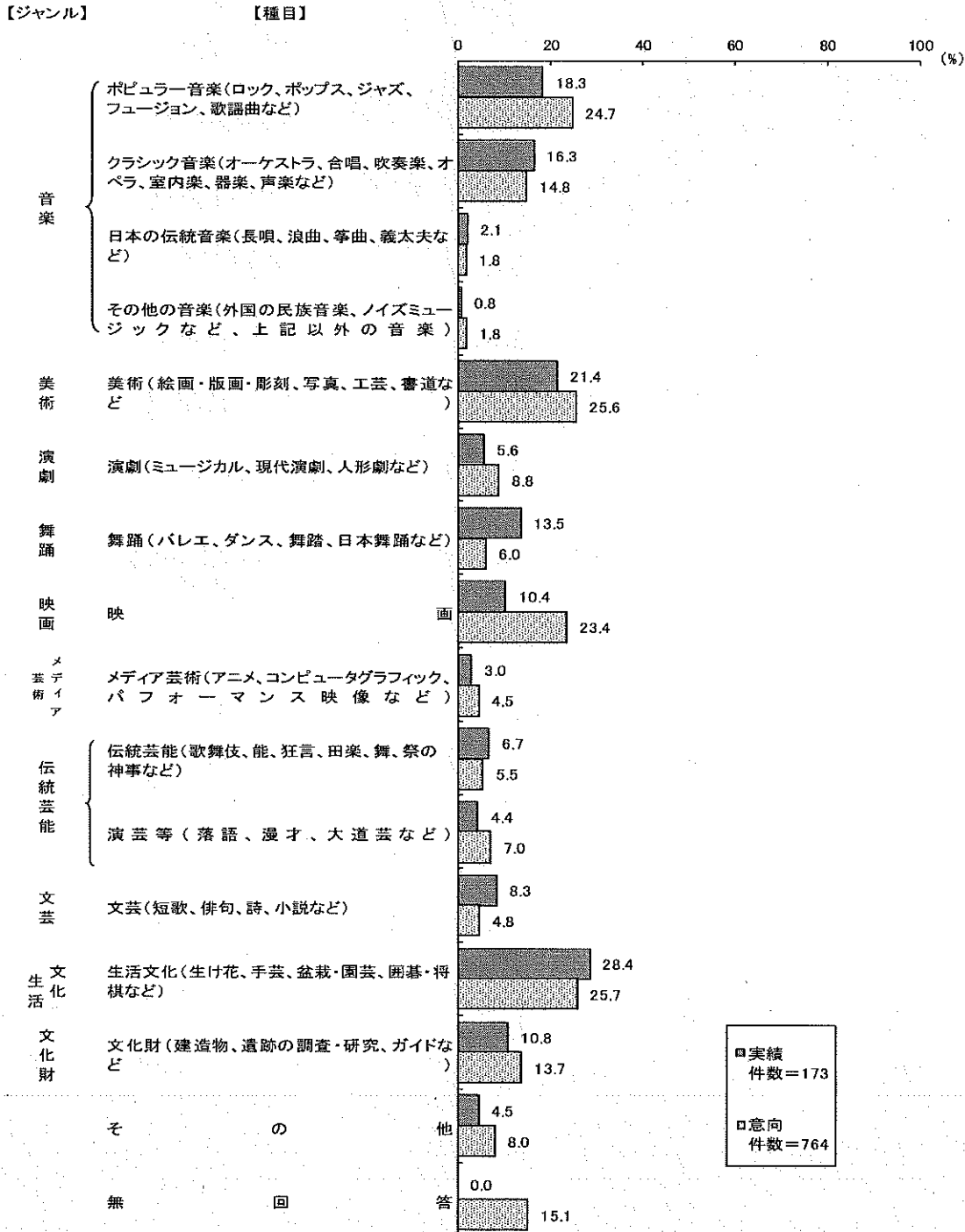
性	年代	件数	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20~29歳	18	ポピュラー音楽 27.8	メディア芸術 22.2	映画 16.7	演芸等/クラシック音楽 11.1	
	30~39歳	30	映画/ポピュラー音楽 30.0		美術 23.3	クラシック音楽 20.0	演劇 13.3
	40~49歳	50	美術 34.0	ポピュラー音楽 28.0	文化財 26.0	映画 18.0	生活文化 16.0
	50~59歳	67	映画 44.8	美術 29.9	ポピュラー音楽 26.9	文化財 20.9	生活文化 16.4
	60~69歳	95	映画/美術 34.7		ポピュラー音楽 32.6	文化財 31.6	生活文化 21.1
	70歳以上	93	生活文化 22.6	ポピュラー音楽 19.4	美術 18.3	文化財/その他 15.1	
女性	20~29歳	36	美術 30.6	生活文化/映画 27.8		ポピュラー音楽 22.2	クラシック音楽 16.7
	30~39歳	57	ポピュラー音楽 35.1	生活文化 28.1	映画 26.3	クラシック音楽 15.8	美術 14.0
	40~49歳	75	生活文化 26.7	美術 25.3	映画 22.7	クラシック音楽 18.7	ポピュラー音楽 17.3
	50~59歳	70	生活文化 41.4	美術 37.1	ポピュラー音楽 25.7	文化財/映画 22.9	
	60~69歳	104	生活文化 43.3	美術 28.8	映画 22.1	ポピュラー音楽 20.2	クラシック音楽 18.3
	70歳以上	69	生活文化 30.4	美術 23.2	クラシック音楽 17.4	ポピュラー音楽 15.9	その他 14.5

<活動内容との比較>

2-2の「昨年1年間の活動実績」と今後の活動意向を比較すると、活動意向が特に上回っている種目は、「映画」(+13.0ポイント)、「ポピュラー音楽」(+6.4ポイント)となっている。

また、実績に比べ、意向が下回っている種目としては、「舞踊」(△7.5ポイント)、「文芸」(△3.5ポイント)などがある。

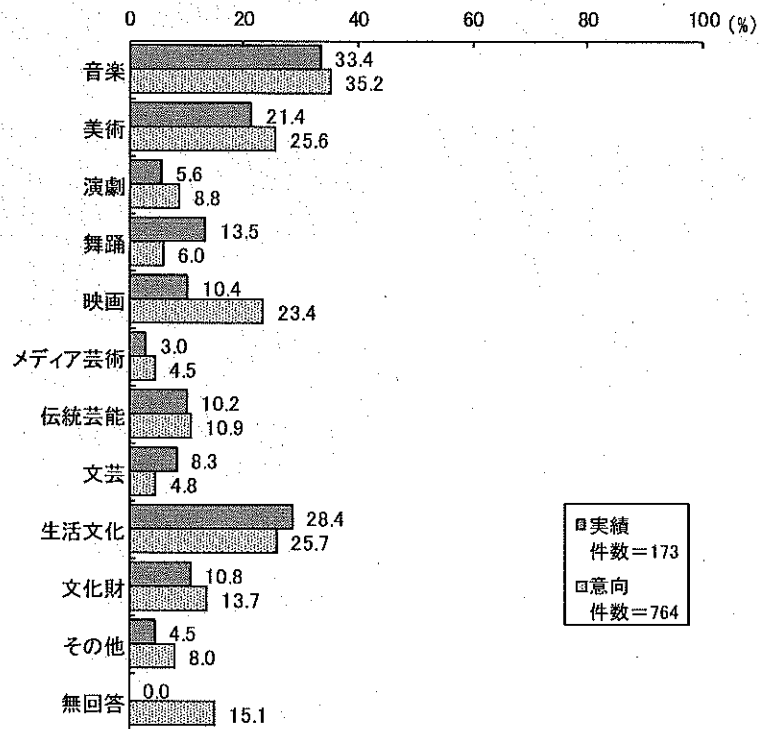
【図2-6-iv 活動実績と活動意向の比較】



<活動したジャンルとの比較>

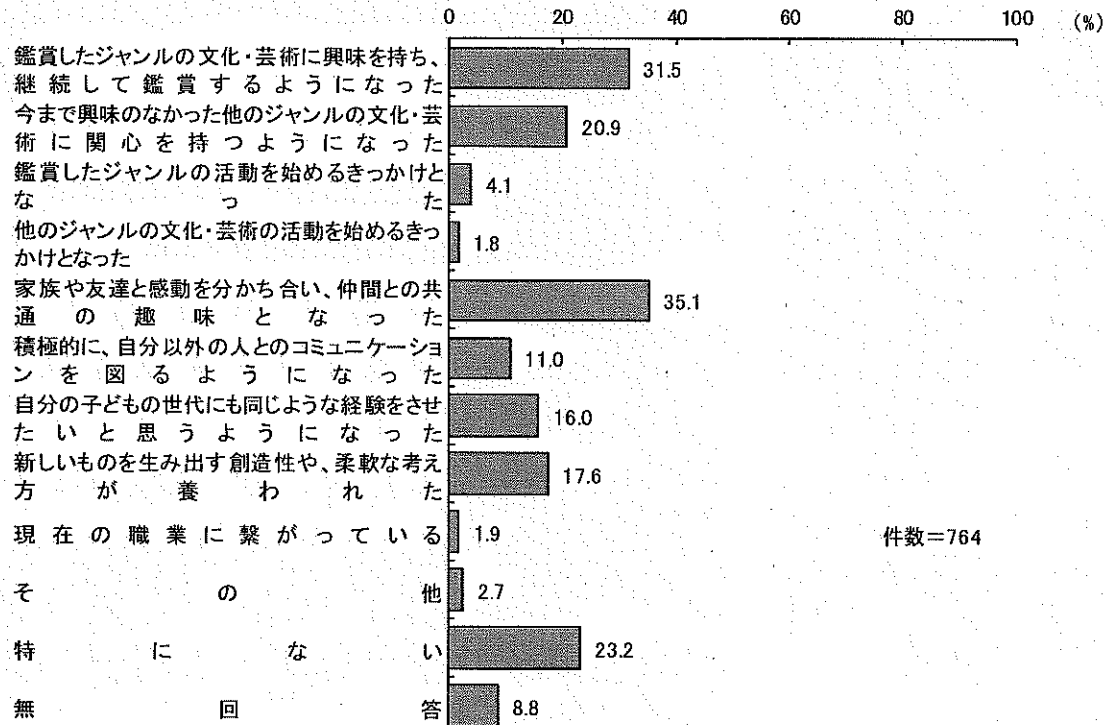
2-2の活動内容と同様に、ジャンルについても昨年1年間に活動したジャンルと今後活動したいジャンルを比較すると、今後の活動意向が「映画」では13.0ポイント実績を上回っている。

【図2-6-v 活動実績ジャンルと活動意向ジャンルの比較】



2-7 活動による効果・影響

問17 あなたは、これまで文化・芸術に関する活動を行ったことで、自身にどのような効果・影響がありましたか。
次の中から当てはまるものを3つまで○をつけてください。



<全体>

活動による効果・影響については、「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が35.1%で最も高く、次いで「鑑賞したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して鑑賞するようになった」が31.5%、「今まで興味のなかった他のジャンルの文化・芸術に関心を持つようになった」が20.9%となった。なお「特にな」は23.2%であった。

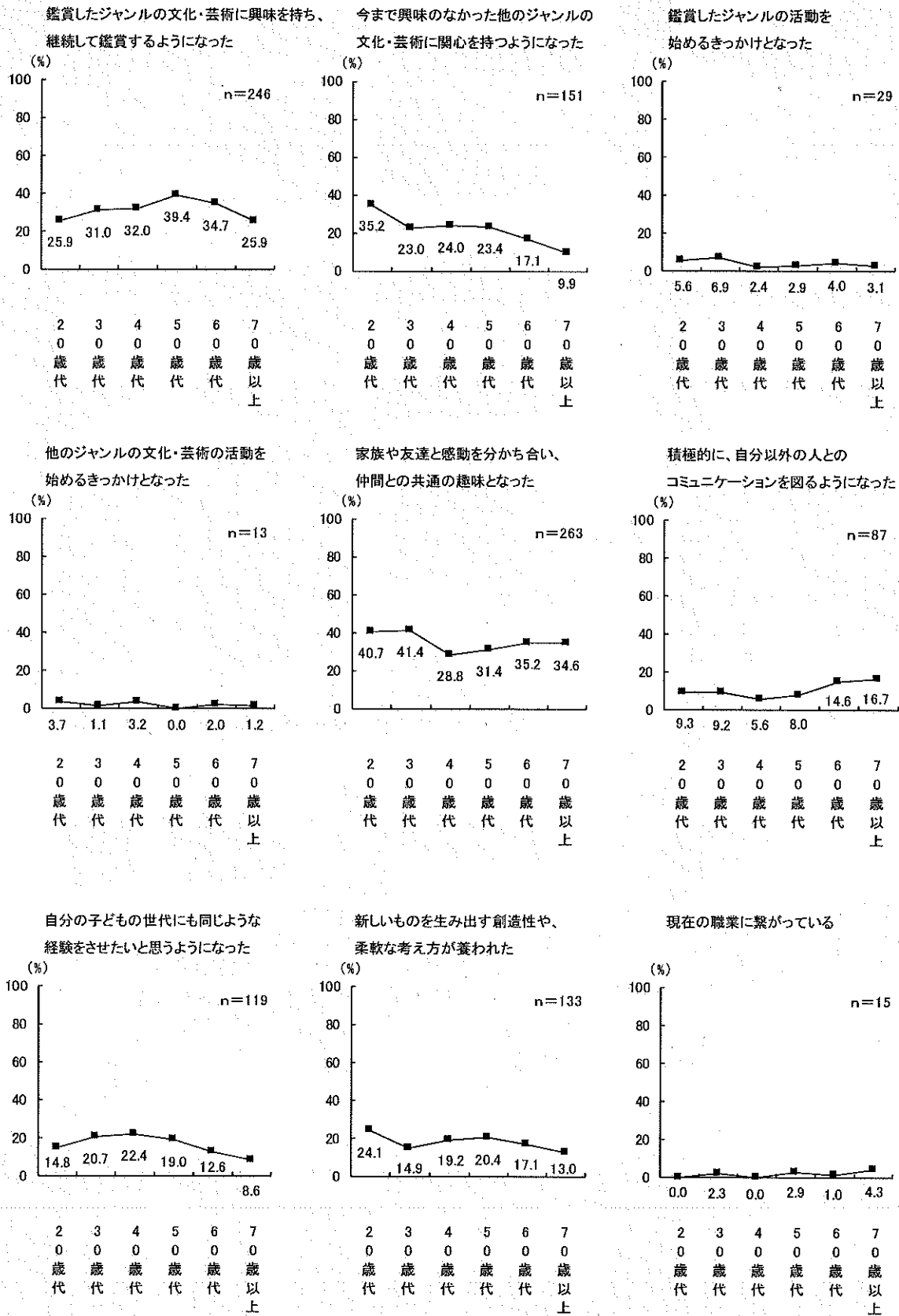
また、「現在の職業に繋がっている」で挙げられた具体的職業は、次の通りである。

- ・教員・教諭
- ・観光名所案内など
- ・建築設計
- ・パティシエ
- ・童話作家
- ・書道教師（主として和様）

<年代別>

40歳代と50歳代で「鑑賞したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して鑑賞するようになった」が第1位となり、それ以外の年代では「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が第1位となっている。第2位は、20歳代で「今まで興味のなかった他のジャンルの文化・芸術に関心を持つようになった」が続いた。30歳代、60歳代、70歳以上では「鑑賞したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して鑑賞するようになった」が、40歳代、50歳代では「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が、それぞれ続いた。

【図2-7-i 年代別 活動による効果・影響】



<地区別>

地区別でみると、東部地区と西部地区では「家族や友達と感動を分かち合い、仲間との共通の趣味となった」が、それぞれ34.0%、39.5%、中部地区では「鑑賞したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して鑑賞するようになった」が36.5%と、最も高い。

東部地区では、「鑑賞したジャンルの文化・芸術に興味を持ち、継続して鑑賞するようになった」が3割を下回り、他の2地区に比べて低くなっている。

【図2-7-ii 地区別 活動による効果・影響】

